

# 早崎家文書からみるレジストロ植民地 第二四区の日系子弟教育

A History of Schools in a Japanese Settlement (District 24, Registro)  
through Hayasaki-House Papers

泉水英計

SENSUI Hidekazu

## はじめに

ブラジルの日系子弟教育の歴史についてはまとまった資料が欠如しているといわれる。大正小学校の記録はひとつの例外であるが、そのような市街地ではなく植民地のような農村部については、例外的に詳細な記録が、コチア植民地にあった小学校の年誌（石原辰雄『コチア小学校の50年—ブラジル日系児童教育の実態』私家版、1978）である。このように指摘した『ブラジル日本移民百年史』第3巻（風響社、2010年）は、コチア小学校の記録からの引用を列挙して該当項目を記述している。より本格的な根川幸男の研究（『ブラジル日系移民の教育史』みすず書房、2016年）も、教務日誌の残されている例外的な事例としてコチア小学校に注目し、とくに教室の実態を具体的にうかがう資料として効果的に用いている。ここに本書資料編として紹介するレジストロ植民地第二四区の日系子弟教育に関する資料は、作成期間の幅が短く（1926～1935年）、学校の規模もコチア小学校に遙かに及ばない。しかし、小規模であるがゆえに、学校を運営した自治組織およびその構成員との具体的な関係を明確に掴むことができる点で注目してよいだろう。

レジストロ植民地第二四区とは入植家族の自治組織を構成するひとつの地域単位であり、そのような地域単位は最終的にレジストロ内に計26箇区が設置された。地理的には、第二四区は海外興業の開発地の周辺部に位置し、植民地主要部へのアクセスが悪かったため、組織運営のうえでも、住民の意識のうえでも、他区に比べると独立性が高かった。1930年ごろの第二四区は13戸から14戸100人前後からなる小規模な自治組織であったが、公立学校を誘致し、さらに日系子弟のための私立学校も経営していた。

以下に紹介する資料は、第二四区の早崎家に保存されていたノート3冊と文書類1束の一部である。福澤一興氏（レジストロ日伯文化協会）が作成したデジタル画像データがあり、3冊のノートには通して「Caderno + アルファベット + 4桁数字」というファイル名が付けられ、書類束には「Bunkyo + 4桁数字」が付けられている。

Caderno（ポルトガル語で帳面の意）に含まれる資料は、(1) 第二四区日語学校の経営に関する覚（A0001-0065）、(2) 「キロンボ童夢倶楽部記帳」という表題のある日誌（B0001-0037）、(3) 第二四区日語学校の出欠簿（C0001-0106）の3冊である。(1)の学校経営の覚は、第二四区に日語学校が

A	Caderno A0001-0065	日語学校経営に関する覚書（冊子）
B	Caderno B0001-0037	キロンボ童夢倶楽部記帳（冊子）
C	Caderno C0001-0106	日語学校出欠簿（冊子）
D	Bunkyo 0001-0527	自治会文書（書類束）

設立された1931年から、教員不在のために休校となった1935年の間に記されたもの、(2)の童夢倶楽部の記帳は、1944年に第二四区で結成された日系少年少女の移動音楽教室のメンバーによっ

て、同年から1947年の間に記されたもの、(3)の出欠簿は、1933年から第二四区日語学校で教鞭を執った岡野弥吉が、同年2月初から1935年7月末の辞職までつけていた生徒の通学記録である。

一方、Bunkyoの書類束は自治組織の運営一般に関する文書群であり、文書総数は527枚あり（Bunkyo 0001-0527）、第二四区区会の記録と役員間の通信、第二四区とその上位組織である第三部との通信、最上位の自治組織であるレジストロ郷との通信を含む。これらの文書が作成された期間は1926年から1936年である。

この資料編は3部構成とし、第一章では、Caderno (1)の冊子とBunkyoの文書によって第二四区日語学校の沿革をたどる。表3「第二四区日語学校経営覚」（220～221頁）に一覧を示したように、この冊子は、授業料や学校維持費の納入記録、教員給与の支払い記録、在籍児童名簿、校舎や教員住宅の建築工事関係書類、学期末の収支決算書からなる。一方、表4「第二四区自治会文書—学校関係」（240～244頁）に示したように、Bunkyoの文書527枚のうち約150枚が第二四区の学校教育に直接に関連する情報を含んでいる<sup>(1)</sup>。日語学校の沿革を整理したうえで、これらの資料から読み取れる公立学校との関係と、日語学校の経営方法に触れる。つづく第二章は、第一章の学校沿革史の根拠となる資料を画像の形で掲載する。最後の第三章では、Caderno (2)の冊子「キロンボ童夢倶楽部記帳」について、簡単な解説を付したうえで全頁を翻刻の形で紹介する。

## 1 第二四区日語学校の沿革

表1 第二四区の入植者

家長名	出身地	生年	渡航時人員	1927年9月人員
第4回植民（若狭丸、1917年11月出帆）				
柳橋弥作	石川	1889年	3人	5人
第10回植民（讃岐丸、1918年9月出帆）				
松本覚次	長野	1897年	3人	5人
第14回植民（讃岐丸、1919年3月出帆）				
宮下丑蔵	長野	1887年	3人	6人
吉川喜之作	長野	1881年	7人	8人
田中正勝	長野	1902年	5人	6人
第15回植民（鎌倉丸、1919年5月出帆）				
奥山策次	東京	1890年	5人	6人
早崎茂吉	北海道	1890年	8人	13人
小宮山堯一	東京	1895年	3人	7人
第16回植民（布哇丸、1919年7月出帆）				
奥山幸三郎	東京	1893年	4人	6人
第18回植民（鎌倉丸、1919年11月出帆）				
佐々木三太郎	秋田	1897年	2人	4人
橋本留治	秋田	1889年	4人	6人
第19回植民（土佐丸、1920年3月出帆）				
田代栄三	東京	1898年	2人	5人
菊地尚信	東京	1893年	5人	7人

### 1) 第二四区の入植家族

レジストロ植民地の開設期に第二四区には23戸が入植したが、転出が相次ぎ、1924年までに13戸に減じていた。まずは、残留したおもな植民家族を一覧しておきたい。出身地や渡航時の家族構成については移民会社の「移民名簿」<sup>(2)</sup>に拠った。レジストロに入植したのちの家族構成員の変化については、初期の入植者である松村栄治により出生と死亡が追記された「契約原簿」<sup>(3)</sup>と、1927年9月のトラコーマ検査用名簿（Bunkyo 0201-2）を参考にした。

表1「第二四区の入植者」に示したように、これらの家族は1918年初めから1920年前半にレジストロに入植している。出身地が東京となっているのは、母島（小笠原）の小宮山家を除きすべてが八丈島であるが、その小宮山家も奥山家とは姻戚関係（幸三郎の妻の生家）にあり、八丈島と関



係が深い。

なお、これら 13 家族のほか第二四区の文書類に名前をみる入植者に安藤徳治（香川、1886 年生）がいる。安藤は、1926 年 6 月出帆のサントス丸にて一家 6 人で渡伯、第三部第一〇区に入植していた臼杵佐平の契約農家となった（『移民名簿』の付記による）。しかし、第二四区の運営費を負担する戸数割に加わっているため、契約終了後に同区に移転、ロッテを入手して自作農になったとかがえられる。

また、1931 年から翌年にかけて第二四区区長を務めた高市太郎（北海道）は早崎茂吉の同居人であり、茂吉の義父である。早崎家と同じ 1919 年 5 月出帆の鎌倉丸で渡伯したが、早崎家とは別世帯の高駒次郎の兄として登録されている。高駒

次郎は第二四区に入植したことが確認できるが、早崎家文書には言及がなく、1920 年代後半までに転出したとかがえられる。市太郎のみが娘の嫁ぎ先に残ったということになる。安中末次郎『イグアッペ植民地創立廿週年記念写真帖、1913～1933』（安中末次郎、1934 年）では、早崎茂吉は高市太郎の共同経営者として紹介されている。

若い夫婦に子どもが生まれ、どの家族も渡伯後に人員が増えた。第二四区に永住する意志を固めた家族には、教育環境の整備が喫緊の課題となっていた。レジストロでは、植民地を 5 分割する「部」の単位で学校が設立され、第二四区は第三部に属するので、原則的には第三部校の学区に属していた。しかし、第三部校までは、近い入植地区からでも 6 キロメートル、遠い入植地区からは 11 キロメートルの距離があり、毎日児童を通学させるには遠すぎた（Bunkyo 0001）。

以下では、この小規模な自治組織が、どのようにみずからの学校をつくり、経営していったのかをみていきたい。あらかじめ概略を示しておく、第二四区内の初等学校は、1926 年にまず公立学校が開校し（図 1「第二四区入植状況と学校の位置」の①）、つぎに、日系子弟教育に特化した学校が 1931 年に発足（図 1 の②）、翌年に新設の本校舎に移転し（図 1 の③）、独立した私立日語学校として公認を申請、つづく 1933 年には教員宿舎を備え学校としての体裁が整えられた。



図 1 第二四区入植状況と学校の位置

## 2) 公立伯語学校（キロンボ混合学校）の設立—1926 年

第二四区児童の通った公立学校にはカピンザル校とキロンボ校があった。両校とも 1926 年秋に校舎が完成、翌年初めにサンパウロ州政府の公認を取得して公立の農村混合学校（Escola Mista Rural）となっている。

カピンザル混合学校は、レジストロ植民地の地理的境界の外、第二四区からは 7 キロメートルに立地していた（Bunkyo 0425）。日語学校としての登録用に準備されたメモによれば、1926 年 9 月 20 日に 1 町 2 反歩の敷地内に木造瓦葺校舎が建てられ、翌年 1 月 20 日に州政府の公認を受け、翌月に検定資格のブラジル人教員が赴任した。公認後の教員報酬は政府から支給されるので授業料はかからなかったが、その他の学校維持費は入植者が戸数割りで負担した。生徒は日系児童が 23 人、非日系の伯人児童が 17 人であった。日本語教育もおこなわれ、日系児童のうち 12 人が「日本



語小学校」に在籍していた。いずれも第3学年以上には在籍する児童がいなかった。ただし、日系就学児童の年齢は満7歳から満13歳までと幅があった（Bunkyo 0524-0526）。

補助金申請に関連して1927年に作成された文書によれば、カピンザル混合学校に伯語教員が赴任したのは同年3月6日であった。日本語教育は8月に開始、教員の年俸は400ミルレイスで、保護者が負担した。教員住宅建築と運動場の整備、現学校敷地の買いあげを理由に補助金申請しようとしている（Bunkyo 0178-9）。

これらの文書にみる日語学校登録や補助金が実際に申請されたのか疑問が残る。というのは、同じ年（1926年）に第二四区内にキロンボ混合学校が建設され、やはり翌年度に公認学校として開学しているからである。

同じ年にキロンボにも混合学校が開校したのは、カピンザル校への通学に不便があったからだと説明されている。第二四区からカピンザル校への数キロメートルの通学路は、新たな開墾を必要とするような土地を通るため保護者は不安を感じていたという（Bunkyo 0001-0002）。ただし、キロンボ校開校には他に、レジストロ植民地の境界内に学校を設置するという理由もあったとかがえられる。そのような動きは以前よりあり、第二四区民は第三部の学校を通学可能な地点に移転するよう要望していたが、レジストロ郷会に却下されていた。さらに、比較的、第二四区に近い第一部第一〇区に校舎を建設する代案を立て資材まで準備したが、これも着工直前になってレジストロ郷に中止させられていた。1925年のレジストロ郷会においてようやく第二四区内に学校を設立することが承認されたのであった（Bunkyo 0001）<sup>(4)</sup>。

あらたな学校の在所は早崎茂吉のロッテ内と決まり（Bunkyo 0506によると第272番地）、早崎が所有地1町2反歩を提供した。この敷地に校舎（間口6間奥行3間）と勝手場、井戸、便所が建てられた。総工費は約7コントスであった。日本政府補助金3コントスを差引き、残額は第二四区区民が2コントス800ミルレイス、他区の住民が600ミルレイス、「外人（非日系住民）」が600ミルレイスを負担したという（Bunkyo 0002）。精確には、第三部に属する他区（八区から一一区）区民からの寄附は891ミルレイス、第二四区附近に在住する非日系人からの寄附は501ミル300レイスであった（Bunkyo 0519、Bunkyo 0521）。

いずれにせよ非日系住民が学校建設に加わっていたことに注目したい。第二四区は、「外人の部落を〔海外興業株式〕会社が〔入植の〕最終末期に買取し分割して入植せしめし土地」（Bunkyo 0001）といわれ、日本人入植者が大多数を占めたレジストロ植民地の他の地域とは住民の人口構成が大きく異なっていた。行政上もレジストロと異なりジャクピランガ郡に属し、ヨーロッパ人の入植したパリーケラ・アスー州立植民地に通じる街道が通り、非日系住民と生活圏が重なっていた。図2「1920年のレジストロ植民地」は入植がほぼ一段落した頃の状態を示す。地図上の太い曲線は道路であり、当時は、第二四区からレジストロ中心部へは道路が通じておらず、第二四区へ通じる道路は日系植民地の外から延びていたことがわかる。

早崎ロッテの校舎が1926年10月12日に落成すると、サンパウロ州政府の公認と教員派遣の手続を要請する請願書が第二四区区長からレジストロ郷司に送られた。この請願書によると、就学予定児童は、日系子弟が18人であったのに対し、「伯人」子弟は28人を数え、非日系児童の方が多かった（Bunkyo 0425）。校名は「第三部分教場」とされることもあったが（Bunkyo 0341）、請願書では、第二四区附近のポルトガル語地名を冠し「キロンボ小学校」<sup>(5)</sup>と記されている（Bunkyo 0425）。州政府から公認がおりたのは翌年3月1日であった。

こうして1927年の初めには最低限の教育環境は整ったが、それはブラジル人としての教育であり、第二四区の親たちには、子どもたちに日系人としての教育も受けさせたいという欲求があっ





図2 1920年のレジストロ植民地

た。上段にて、カピンザル校では小規模な日本語教育がおこなわれていたことに触れたが、キロンボ校で日本語教育がおこなわれた記録はない。1928年2月に、第三部学務委員に通知なく第二四区の児童数名が第三部日語学校で授業を受けていたことが発覚、第三部部長から第二四区区長に宛てて、早急に第三部学務委員の承認を求める所定の手続きをおこなわなければ、登校してきた児童を拒絶するという警告が送られている（Bunkyo 0502）。第二四区の親たちの日本語教育への欲求とともに、第二四区区民と、上位の自治組織である第三部のコミュニケーションに難があったことを示す出来事であった。この時期、第二四区では、夜学という形態で東峰基治が日本語を教え、次項で触れる日曜学校もあったが、これらの日本語教育は「臨時的邦語授業」であって、組織的なものではなかった（Bunkyo 0002）。

### 3) 宗教教育を名目にした日語学校—1931年

本格的な日本語教育は第二四区では1931年から開始された。この年の3月1日に「仮日本語授業専用校舎」にて始業式がおこなわれている。仮校舎とは吉川喜之作の倉庫のことであった（A0002）。これ以前に日曜学校で「臨時的邦語授業」をおこなっていたのは、その次男の吉川茂雄

(1907年生)であった(Bunkyo 0002)。1930年11月に日本政府から第二四区住民にも学校維持費が下附され、これを代金にあてサンパウロ日本人学校父兄会から教材の支給を受けた(Bunkyo 0422)。翌31年1月13日に教材14点が届き(A0003)、24日には第二四区学務委員からレジストロ郷に対し正式日本語授業の開始が報告されている(Bunkyo 0429)。

正式日本語授業の教員として採用されたのは宇賀山勝(1905年生)であった。彼は「中学校卒業、高師薬剤科修業」という学歴であった(A0001)が、カテキスタ(カトリックの伝道師)として渡伯していた。この時点で第二四区日語学校は、宗教教育を名目にした非公認学校であり、宇賀山は私立学校教師としての公認手続をおこなっていない(Bunkyo 0003)。

授業内容についてみると、就学児童は週6日、朝8時に登校し、2時間半の授業を受けている。授業科目は、国語(日本語)と算術、修身が毎日、理科と体操、唱歌、地理、歴史などが隔日に教えられていた(A0001)。隔日科目については、公立学校教師の諒解があったと付記されている。この付記は、ブラジル地歴の指導担当をブラジル人に限定する規則<sup>(6)</sup>に配慮したものであろう。本来ならば、第二四区の児童は、キロンボ混合学校の伯人教師にブラジル地歴を習うべきであった。しかし、さきに触れたサンパウロ日本人学校父兄会支給の教材にはブラジル歴史参考書、ブラジルの地図と主要作物図が含まれており、宇賀山がブラジルの地歴を教えていたことを示唆する。このときに支給された他の教材は、地球儀と世界地図、日本国旗と日本地図、日本の尋常小学校高学年の理科参考書であった(A0003、Bunkyo 0478)。

1931年7月の在籍児童数は、日本語専修生徒が8人、日伯両語すなわちキロンボ混合学校と掛け持ち通学する生徒が11人であった(A0012)。授業料が区会によって徴収され、宇賀山の月給は、そこから70ミルレイス、6月には年度末手当50ミルレイスを加算した額が支払われた(A0008)。加えて、教会から毎月130ミルレイスの補助金が出されていたが、1931年7月以降はこの補助金は減額された(Bunkyo 0002)。このとき第二四区の学務委員であった田中正勝の寄附により、宇賀山の月給は150ミルレイスになった(Bunkyo 0002、Bunkyo 0475)。

吉川ロッテの仮校舎は使用不可能となり田中の住宅で宇賀山は授業を続けたが、田中のロッテ内では日語学校本校舎の建設が始まっていた。5月20日の区会で教場の建設が決議され、部材は各戸が分担し7月中に取りそろえること、搬出と地均しには共同出役すること、建築費は日本政府補助金を使い不足分は寄附を募ることが合意された(Bunkyo 0031、Bunkyo 0243)。工事が本格化した9月には、田中家から「満腔ノ協賛ト承認ヲ致シ…講堂ノ敷地用トシテ、六百坪之地面ヲ永久ニ御区ヘ寄附仕り候」という覚書が送られた(Bunkyo 0252-3)。ところが、カテキスタの宇賀山は伝教が本職であったので、一地域に長期間留まることができず、この年の年末、講堂の竣工を見ずに教壇を降りてしまった(Bunkyo 0002)。

#### 4) 日語学校講堂の完成—1932年

2年目の第二四区日語学校は公認取得に動き、田中ロッテ内の講堂も完成して正式な学校としての外見も整うが、その教壇に立ったのは田中正勝自身であった。

新学年度を迎えるのにもかかわらず宇賀山の後任補充が難航していたところ、第二四区の学務委員であった田中は「決然起つて、教鞭を執る意を発表」し、月額120ミルレイスの薄給をすすんで受け入れたという(Bunkyo 0003)。1月16日に第二四区区長から第三部部长へ教師公認手続の請願が送られ(Bunkyo 0235)、翌月9日のレジストロ郷会はこの承認、田中はサンパウロ日本人学校父兄会の公認教師として登録された(Bunkyo 0003)。





同じ2月9日の郷会では、サンパウロ州学務局に私立学校として認可申請することも承認されたが、レジストロ郷は、第二四区区民が独自に学校を運営することに警戒感を抱いていたようである。他の日語学校は部レベルで運営されていて、部の下の区レベルの日語学校は異例であった。レジストロ郷は、郷の下付金は他の日語学校の3分の1とすること、第二四区以外からの通学を禁じるということを書面で送り（Bunkyo 0062）、さらに、申請手続きのまえにこの件について「区民ト十分了解ヲ得」るために郷司と第三部部長が直接第二四区に赴いて、区民全員を召集した会合をもった（Bunkyo 0067）。レジストロ郷は第二四区に誓約書の提出を求め、第二四区は、学校の維持に郷費や部費の補助を仰がないこと、公的な学校代表者は郷司とし郷の指示にしたがうこと、他区からの通学希望は関係部長の承認を受けること、郷内に対しては学校代表者を区長とし教員を学校代表者や学務委員としないことを郷司に約束した（Bunkyo 0074）。

しかし、じつは第二四区は、レジストロ郷によるこのような管理を自区の不利益とみなし、サンパウロ日本人学校父兄会に直轄管理を受ける可能性を打診していた。請願書によると、レジストロ郷は第二四区日語学校を分校扱いし、「少額の施与を致そうと計る趣きがあり色々残念なことがある」が、むしろ特殊な学校であるゆえに特別な助成金や補助金が必要であるという。レジストロ郷は学校代表者を郷司にせよと要求しているが、「純独立の各校として存在」するのだから父兄会から直接に指導と支援を受ける資格があり、区民はそれを切望しているという（Bunkyo 0003）。

第二四区とその上位組織の確執は、1935年には第三部からの分離問題として浮上することになった（Bunkyo 0147）。このような第二四区の独立志向については、すでに盛岡通の指摘がある。1980年初頭にサンパウロ州内の植民地社会組織の比較研究をおこなった盛岡は、レジストロ植民地で社会組織の単位が学校経営の単位から発展したのは、他の日系植民地にはない特徴であると指摘している（科研費報告書『ブラジル南部外国人移住地域における住文化変容に関する比較調査』大阪大学工学部、1982年、103頁）。

田中ロッテで建築の進んでいた講堂（間口6間奥行3間）は1932年2月21日に竣工した。工費



図3 田中正勝（後列左から4人目）と第二四区日語学校生徒  
（安中末次郎『イグアッペ植民地創立廿週年記念写真帖』より）



は、人夫代を除いた建物分の総額が2 コントス 353 ミル 800 レイスであり、7 コントス近かったキロンボ混合学校の校舎に比べると簡易な造りであったと想像できる。うち1 コントはサンパウロ日本人学校父兄会の学校維持費下付金が充てられ、残額は第二四区区民の寄附金で賄われた(Bunkyo 0236)。各戸が分担して準備した建築材料費(Bunkyo 0238, 0243)、各戸の責任で供出した人夫労賃(Bunkyo 0237)が算出され、差額の調整によって精算された。人夫分担に雇用労働者を出す者もあり、このような場合「外人」の人夫日当換算は日本人の70 パーセントに減額されている。

同年2月25日からこの新築講堂で田中が新年度の授業を始めた。田中は長野県生まれ、生家は貧しく彼が尋常高等小学校を出た翌年に一家3世代をあげて渡伯したが、渡伯直後に父が他界、彼は長男として家族を支え、苦勞した末に自家の営農を安定させていた(田中「開拓!! 廿年の体験」『オレジストロ』第34号、1938年7月)。安中末次郎の『イグアッペ植民地創立廿週年記念写真帖、1913~1933』は、田中について、「二世日本人教育に重大なる関心を持ち自地区内に私立小学校を建設し午前中氏自ら其の教育任にあたり尽力され居れり」とキャプションを付けている。

この『廿週年記念写真帖』の田中家の頁には、講堂を背景にした第二四区日語学校生徒の集合写真も掲載されている(図3)。区会の記録から、この写真は1933年1月8日に撮影されたものであることが確認できる。この日はキロンボ混合学校の除草作業日であり、第二四区区民は朝から共同作業をおこない、そののち日語学校に移動し生徒を呼び集めて撮影に応じた(Bunkyo 0506)。写真の大人たちの中央に田中は写り込んでいる。しかし、じつは彼は前年度末で教職を辞しており、このときもはや同校の教員ではなかった。

## 5) 公認私立学校—1933年から1935年

1932年12月18日、第二四区区会は日語学校の存続を決議、田中の後任補充の算段がなされていた。あらためて決議を必要としたのは、教育費の負担増に区民の合意を要したからである。宇賀山も田中も、児童の保護者から徴収した授業料によって賄われた月給は70 ミルレイスであった<sup>(7)</sup>。しかし、この日の区会では、月給180 ミルレイス以内の待遇で教員候補を探すことが決められた。この額が日語学校の教員待遇の相場であったからであろう<sup>(8)</sup>。その予算を確保するために授業料を値上げしたが、それでも毎月の授業料収入は総額92 ミルレイスにしかならなかった(A0027、Bunkyo 0508)。

不足分は「戸数等級割」によって確保が図られた。これは当時の日本の地方税に類した徴収方法であり、第二四区では営農規模によって各戸を4等級または8等級に分類し負担額に格差を設けていたが、さらに各戸の持株数を定めることにより、ひとつの等級内にも負担額の差をつくっていた。そのうえで徴収の度ごとに一株あたりの負担額を定め、株数との積により実際の徴収額を算出していた。当初、教員給料予算の不足分については、一株あたり800 レイスとし、総株数140株を積算し毎月112 ミルレイスを確保することで合意されている(A0027-8、Bunkyo 0081-2)。

後任教員には複数の候補者があがったが、最終的に採用されたのは岡野弥吉であった。彼は1909年広島生まれ、県立戸手実業学校農業科を卒業し渡伯していた。1月20日に月給150 ミルレイスで第二四区と契約を結び、翌月1日から日語学校での授業を開始した(A0029)。

岡野は赴任当初、吉川宅に寄宿していたが、サンパウロ日本人学校父兄会から教員住宅建築費補助金の下附され、教員住宅が建てられた(A0035)。講堂の建築時と同様におもな部材は住民が用意し、瓦と建具は購入、労賃はいったん支出として算定したうえで、住民の出役でまかなわれた分を



差し引き精算されている（A0058、A0061-2）。7月15日に着工し、9月30日に竣工している。なお、この補助金の一部が教室備品（机と椅子20人分）とキロンボ混合学校の修繕費に流用された形跡が残る（A0064）。

こうして第二四区日語学校は人員も設備も整い、この後の2箇年半にわたり安定して運営されたようである。冒頭に述べように、この間に岡野のつけた出欠簿が残されており、通学児童数は少ない月で18人、多い月は22人であった。1935年7月には岡野の昇給が決まった（Bunkyo 0346）が、彼は急遽ジュキア線方面に移住することになり（Bunkyo 0374）、9月8日付で辞表を提出した（Bunkyo 0352）。

管見のかぎり早崎家文書中には岡野辞任後の二十四区日語学校の活動を裏付ける記録はない。『レジストロ植民地の六十年』（レジストロ六〇年史刊行委員会、1978）に記載された第二十四区日語学校教員も、宇賀山勝、田中正勝、岡野弥吉の3人のみである（同書、115頁）。岡野の辞職によって、第二四区日語学校は休校状態になり、日語教育を受けるには遠路、第三部の学校に通ったとみてよいであろう。現在も健在の早崎家出身の老嫗は、1年間だけ同家ロッテ内の学校（すなわちキロンボ混合学校）で学び、翌年からは第三部の学校に通ったという。彼女は1928年生れであり、1935年のことであると考えてよい<sup>(9)</sup>。

## 6) 伯語校と日語校の関係

以上、早崎家文書をもとに再構成してみると、1930年代前半の第二四区の初等教育は、キロンボ混合学校という公立の伯語校と、分教場扱いで発足してやがて私立学校として公認される日語校とが並存していたことがわかる。公立校と私立校なので経営者が異なる別の教育機関であるが、日語校を「キロンボ小学校内日本語科」と記す文書もある（A0001）。日語校が伯語校に属するかのような表現は、日系子弟が両校に同時に通学したことから生じているとかがえられる。ここで、両校のこのような微妙な関係について、本資料からわかることを整理しておきたい。付言しておく、早崎ロッテにあった伯語校の校舎と田中ロッテにあった日語校の校舎（講堂）の間には約1キロの距離があった（Bunkyo 0506）。

キロンボ混合学校は公立学校であったので教員給料は政府が支給していたが、それ以外の経費は住民が負担していた。このような住民側の負担として、そもそも校舎の建築費が日本政府補助金と第二四区区民および他区の日系住民の寄附金により賄われ、第二四区区民の労働提供もあったことをみた。公立学校としての運営が開始されたのちも、校舎の修繕費には区費（A0015）や日本政府補助金（A0064）が流用されていた。また、キロンボ混合学校には教員住宅がなく、教員は宮下邸に寄宿し、宮下丑蔵（1887年生れ）には半年ごとに区費から30ミルレイスが寄宿代として支払われていた（A0018）。

校舎の建築には非日系住民からも寄附が集められたことはすでにみたとおりである。学校の維持に関する非日系住民の協力について早崎家文書から確認できるのは学校清掃の共同作業である。毎月第一日曜日に伯語校の校庭（第三日曜日には日語校の校庭）で除草作業がおこなわれ（Bunkyo 0346）、各戸の負担を公平にするために出欠は几帳面に記録されている。1927年3月の清掃作業記録には、日本人10名と「ブラジル人」（非日系人）7人が名を連ねている（Bunkyo 0285）。1929年7月から翌年6月の月例清掃作業の出欠表には非日系人は1人のみであるが、日本人13戸と同列に並べられている点が目を引く（Bunkyo 0329）。「ラフエー」と記されたこの非日系人は、海外興業のロッテを3区画所有していたRaphael家の家長であったと考えられる（前出、図1「第

二四区入植状況と学校の位置」参照)。

1931 年 10 月には、日本人と非日系が混じる父兄会も結成された。会則には、活動内容に学齢期の文盲者の登録（第 1 条 f 項）や近隣児童の通学勧誘（第 3 条）が含まれ、多数の未就学児童の存在を示唆する。また、道徳心や愛国心に並んで衛生思想の普及（*educação moral, civica e higienica*）にも言及され（第 1 条 d 項）、学校が生徒家族の健康保護と疾病予防（同条 h 項）といった地域公衆衛生の役割も担っていたことがわかる（Bunkyo 0271-3, Bunkyo 0274-6）。この父兄会は、日系人が主導したものではなく、アウロラ校長、アマラル郡視学官、そして教員のサンタナの勧告によって結成されたものであった（Bunkyo 0273）。

このような父兄会の結成勧告は、キロンボ混合学校の運営の梃子入れの一環であった可能性が高い。同年 8 月 18 日にアニタ・サンタナ（Ana Sant'Ana）がキロンボ混合学校の教員として赴任した。前日にジャクピランガ統括学務局から辞令を受けた彼女は、授業を開始するので児童を登校させるよう第二四区に通告している（Bunkyo 0288）。裏をかえせば、サンタナ赴任前には一時的に休校状態であったということになる。サンタナの通告を受けた第二四区役員の会議は、「今回伯語学校開始に至るローゼン氏の援助」に感謝を表することを決議した（同上）こともこの推測を裏付けよう<sup>(10)</sup>。セルマ・オオムロによれば、過去においては、公立学校が設立されても、教師が配置されないことは珍しくなかった（Omuro, 'A escolarização da comunidade nipo-brasileira de Registro (1913-1963).' Pontifícia Universidade Católica de São Paulo, 2015, p. 57）。サンタナ赴任の 10 日後には、師範学校卒の教員の赴任も決まり（Bunkyo 0073）、キロンボ混合学校は運営体制を充実させた。『レジストロ植民地の六十年』によれば、日語学校は、ブラジル義務教育の就学年齢の児童を通学させるために私立学校の認可を取得し、私立学校に課されたブラジル人担当科目の条件（ポルトガル語とブラジル地歴の担当教員の国籍要件）を満たすために伯語校の教員を兼任教員として雇用したが、1932 年 4 月の私立学校監督部条令によりこの方式が通用しなくなり、日語学校入学を 10 歳以上に改めたという（レジストロ六〇年史刊行委員会、1978 年、111 頁）。

しかし、この説明は第二四区日語学校には該当しないようである。第二四区がブラジル人教員に給料を支払いはじめたのは 1933 年 2 月からである（A0032）。その前月に第二四区から公証人に公認登録手数料が支払われている（A0019）。したがって、兼任教員の採用は、私立学校の認可条件を満たすためのものであったとかがえられる。宗教教育の名目を失った 1932 年に私立学校の認可申請がおこなわれたが、同年 7 月に護憲革命による政情の混乱があったため、手続きが翌年まで遅れたとかがえられる。

最初の兼任教員はサンタナで、月給は 20 ミルレイス（A0032）、1933 年 8 月にカルメン先生（姓不明）に交替（A0042）、第二四区では彼女の歓迎会を開いている（A0041）。1934 年は 2 月 3 月にアメリカ先生（姓不明）、4 月 5 月にアンナ先生（姓不明）が出講、彼女は 30 ミルレイスに昇給しているので、サンタナと同一人物であった可能性がある（A0046）。8 月から 11 月は月給 20 ミルレイスでエステルが担当（A0049）、翌年も継続した（A0053）。このような伯語校教員の出講は岡野の辞職で日語校が休校するまで続いた（A0055）。

## 7) 経営財源の変化

以上のような日伯両校の関係とならび、早崎家文書によって具体的に跡づけることができるのは、日語学校の経営方法である。第二四区の日語学校は、通学児童数に応じて徴収された授業料と、等級割により徴収された学校維持費を財源としていた。表 2「第二四区日語学校の授業料およ





表2 第二四区日語学校の授業料および学校維持費納入記録

			1931/03-06	1931/07-12	1932/02-06	1932/07-12	1933/02-06	1933/ 07-12	1934/ 01-06	1934/ 07-12	1935/ 01-06	1935/07-09		
	世代	生年	授業料	数え年 課程 授業料	課程 授業料	授業料	通学 児童 授業料 維持費	授業料 維持費	授業料 維持費	授業料 維持費	授業料 維持費	授業料 維持費		
早崎茂吉			2名、7.5 鈎	2名、7.5 鈎	茂雄、榮雅、8 鈎	2名、11 鈎	茂雄、7 鈎 12 鈎	19 鈎	22 鈎	22 鈎	26 鈎	16 鈎 13.5 鈎		
茂雄	二世	19191007		13 日	日		○							
榮雅	二世	19220121		10 日	日伯		○							
貞枝	二世	19240426		7 見習	○									
玉枝	二世	19260601					○							
菊地尚信			3名、7.5 鈎	3名、7.5 鈎	悌子、信江、8 鈎	2名、8 鈎	信江、7 鈎 8 鈎	15 鈎	18 鈎	18 鈎	17 鈎	4 鈎 11.7 鈎		
久子	一世	19160928		16 日										
悌子	一世	19190307		13 日									日伯	○
信江	二世	19210730		11 日									日	○
静野	二世	19241107					○							
小宮山堯一			2名、7.5 鈎	2名、7.5 鈎	文雄、6 鈎	1名、7.5 鈎	文雄、7 鈎 9.6 鈎	16.6 鈎	21.2 鈎	19.6 鈎	18.6 鈎	4 鈎 14.4 鈎		
文雄	二世	19210228		11 日	日伯		○							
邦雄	二世	19230611		9 伯	○									
愛子	二世	19251025		○										
田代栄三			2名、7.5 鈎	2名、7.5 鈎	栄一、6 鈎	1名、7.5 鈎	栄一、7 鈎 16 鈎	23 鈎	28.4 鈎	28.4 鈎	27.4 鈎	10 鈎 22.5 鈎		
栄一	二世	19220510		10 日	日伯		○							
義次	二世	19240531		8 伯	○									
シズエ	二世	19261015		○										
奥山幸三郎			1名、7.5 鈎	2名、7.5 鈎	賤子、茂、8 鈎	2名、8 鈎	茂、7 鈎 8 鈎	15 鈎	15 鈎	15 鈎	15 鈎	7 鈎 10.8 鈎		
賤子	一世	19170723		15 日	日									
茂	二世	19220210		10 日	日伯								○	
幸雄	二世	19250415		○										
昭二（鉄雄）	二世	19271116					○							
雪子	二世	19300802					○							
吉川喜之作			2名、7.5 鈎	2名、7.5 鈎	×	×	伯幸、7 鈎 14.4 鈎	21.4 鈎	26 鈎	26 鈎	26 鈎	7 鈎 18 鈎		
伯幸	二世	19210614		11 日			○							
博	二世	19240419		8 伯			○							
宮下丑蔵				1名、3 鈎			2名、7.5 鈎						富美子、6 鈎	1名、6 鈎
操	二世	19200527		11 日	日伯		○							
富美子	二世	19220816		10 日	日伯		○							
マリ子	二世	19250512					○							
橋本留治			1名、5 鈎	1名、5 鈎	重美、6 鈎	1名、6 鈎	重美、7 鈎 5.6 鈎	12.6 鈎	5.6 鈎	5.6 鈎	8.6 鈎	4 鈎 7 鈎		
重美	一世	19190924		13 日	日		○							
フサ	二世	19240818		7 見習	○									
柳橋弥作				1名、5 鈎	1名、5 鈎		×						×	キユ、7 鈎 5.6 鈎
キユ	二世	19200716		12 日	日伯		○							
美津男	二世	19230702		7 見習	○									
田中正勝				1名、5 鈎	1名、5 鈎		勝男、8 鈎						2名、8 鈎	勝男信行、11 鈎 14.4 鈎
勝男	二世	19210305		11 日	日伯		○							
奥山信行													○	
安藤徳治				1名、5 鈎	2名、5 鈎		アサエ、3 鈎（4月～5 鈎）						1名、5 鈎	三膳、7 鈎 2.4 鈎
三善	一世	19200215		12 日			○							
アサエ	一世	19221005		10 伯			日伯						○	
コトミ		?											○	
奥山策次（1935 年は信行）			2名、3 鈎	2名、3 鈎	信行、マサ子、5 鈎	1名、5 鈎	マサ子、7 鈎 2.4 鈎	9.4 鈎	9.4 鈎	9.4 鈎	11.4 鈎	×	2.7 鈎	
信行	一世	19190203		13 日	日		○							
マサ子	二世	19210829		11 日	日伯		○							
君子	二世	19240407					○							
松本覚次			2名、5 鈎	2名、5 鈎	一家、6 鈎	1名、6 鈎	一家、7 鈎 4.8 鈎	11.8 鈎	14.8 鈎	11.8 鈎	7.8 鈎	4 鈎 7.2 鈎		
一家	二世	19229220		10 日	日伯		○							
安家	二世	19231012		9 伯	○									
三久	二世	19260630					○							
佐々木三太郎			×	×	×	×	×	2.4 鈎	2.4 鈎	2.4 鈎	2.4 鈎	4 鈎 2.7 鈎		
ミサ	二世	19230317												
			A0002	A0012 \ A0013	A0014	A0020-1	A0001-1 \ A0032	A0033	A0042	A0046	A0049	A0053	A0055	

び学校維持費納入記録」に一覧を示したように、各戸の毎月の学費納入は半期ごとに記録されている。

1931 年下半期、早崎ロッテの仮校舎で宇賀山が教えていた時代の「通学児童」は 13 戸から 24 人、うち 8 人が日本語専修、11 人が伯語校との掛け持ち、5 人が伯語校のみの通学者であった。その他に「見習」という年少者 3 人が記録されている（A0012）。この時期、授業料は 1 人あたり月額 5 ミルレイス、同一戸からの複数の通学者は 7 ミル 500 レイスであった（A0001）。各戸の通学児童数には、伯語校のみに通学する児童も勘定されている。しかし、厳密に言えば、これらの児童は日語学校の通学児童ではなく、その分の授業料を納入していない家もある（A0013）。

1932 年上半期、田中ロッテの講堂に移転し田中が教えていた時期に吉川家と柳橋家の児童は第二四区日語学校には通学しなかった。通学児童は 15 人に減少し、授業料は、1 人あたり月額 6 ミ

ルレイス、2人以上は8ミルレイスに値上げされた(A0014)。下半期には規定以上の授業料を納入する家が複数あり、差額は学校維持に資する寄附とされた(A0020-1)。反対に、授業料の割当負担がつねに規定より少ない家もあり、世帯ごとの経済状態を考慮して調整していたことがわかる。

このような考慮は、1933年以降には戸数等級割の学校維持費として制度化された。負担額は各戸の事情を考慮して定められ、当初の上限は月額16ミルレイス、下限は2ミル400レイスであった(A0033)。この時期の日語学校は、専任教員の岡野を雇い、兼担で伯語校教員も雇ったため、教員給料の支出が2.4倍に膨らんでいた。授業料も再度値上げされ、1人あたり月額7ミルレイス、同一家族から2人ならば11ミルレイス、3人ならば14ミルレイスに改訂されたが(Bunkyo 0508)、以後はむしろ戸数等級割で徴収する学校維持費がおもな経営財源になった。

1933年上半期の通学児童は34人であったが(A0030-1)、授業料は各戸1人分のみしか徴収されていない。年齢から推測すると、ここに記されているのは日語専修の児童であった可能性が高い(A0032)。1935年2月の授業料改定まで、伯語校との掛け持ち通学児童の授業料を記した文書は確認できない。このときに、掛け持ち通学児童の授業料は月額3ミルレイスと定められた(A0051)。

上に1933年の学校維持費導入時の戸数等級割に触れたが、1935年下半期の納入記録からは、この間に戸数等級割が組み替えられたことがわかる。1933年の総株数は140株、当初は一株あたり負担額800レイスで割り振られたが、結局年度末に一株あたり負担額は100レイス加算された(A0034)。1935年に戸数13戸、一株あたりの負担額も900レイスで変わらなかったが、総株数は160株に増加している。最多株をもつ家は25株、最少が3株であり、学校維持費の負担額には8倍以上の開きがあった(A0055)。

持株の多かった農家について安中『廿週年紀念写真帖』のキャプションを拾っておく。田代栄三は所有地63町歩、精米と養豚に加え、使用人延べ4000人(年間人日か)を使って運搬業も営んでいた。吉川喜之作は所有地65町歩、「植民者中屈指のコーヒー栽培者」であった。田中正勝は所有地100町歩、すでに触れたように所有地内に小学校を建設し自ら教壇に立った時期があった。早崎茂吉と高市太郎が共同で経営する農地は120町歩と区内最大であった。植民地開設時に分譲されたロッテ(入植区画)は約25町歩であり、これらの入植者たちは複数のロッテを所有する大規模農家であったことがわかる。

このように徴収されたのは学校の運営資金ではあったが、区内の戸数割で徴収されたので、通学児童がいない家にも学校維持費の負担があった。たとえば、1935年下半期の奥山(策次)家は戸数割り2ミル700レイスを負担しているが、授業料の納入はない(A0055)。さきに触れた岡野のつけていた学校出欠簿を辿ると、同年6月をもってマサ子と君子が通学を止めたことがわかる。「契約原簿」によると前年12月に家長の策次(1890年生れ)が死亡している。姉妹が同時に学校を離れたのは、このことが一因と推測できる。1935年の学校維持費の割当ては、いまだ16歳であった長男・信行に割り当てられた。

佐々木三太郎(1897年生れ)も、学校維持費の戸数割を負担したが、授業料の納入がなかった。1935年7月になって、月額4ミルレイスの授業料を納入するようになったのは(A0055)、長女ミサ(1923年生れ)が尋常科3年に編入学したからである。区役員の回覧文書には、「ミサさんが伯語先生の承認を得て、日語通学が出来る事となりました」と報告され、伯語教員の権限に触れている点に注意をひかれる(Bunkyo 0345)。サンパウロ州では、ポルトガル語の読み書きを習得していない児童に外国語を教えることが禁じられていた<sup>(11)</sup>。しかし、この規制は10歳未満の児童を対象としたものであり、佐々木ミサは当時13歳であった。彼女は幼少期に母を亡くし、弟妹も3人いたので、家事により就学が遅れていたとかがえられる。



## 注

- (1) 自治会文書には自治会が発信人である文書が多く含まれる。言うまでもなく、そのような文書の正文はそれぞれの宛先人のもとに送られたから、自治会文書に残っているのはその写しや草案の類である。このため数値や表記には正文との差異がある可能性に注意されたい。また、人名の漢字表記について一致しないことが少なくないが、ここでは下記注 (2) の「移民名簿」などを参考に統一した。
- (2) 国立国会図書館デジタルコレクション『伯刺西爾行移民名簿』。ブラジルへの移民送出については移民船ごとに連番を付した乗船者名簿が作成され、その内訳の「イグアペ家族植民」がレジストロ入植者の記録である。しかし、1917年とその翌年には「イグアペ家族植民」のみの移民船が複数あり、これらの移民船について『伯刺西爾行移民名簿』は作成されなかった。そのかわりこの両年については、『伯刺西爾行移民名簿』との重複を含め「イグアペ家族植民」のみを集めた『大正六年植民名簿』と『大正七年植民名簿』が作成されている。
- (3) 国立国会図書館憲政資料室日本移民関係資料（移（一）ブラジル 94-1）「伯刺西爾拓殖株式会社イグアペ植民地関係資料『契約原簿』」。海外興業の罫紙を用いた「契約原簿」であるが、正式な記録ではないようであり、情報に粗密がある。以下、入植者家族の生没に関する情報はこの「契約原簿」による。
- (4) 1932年に作成されたこの文書（Bunkyo 0002）は、伯語教員が派遣されキロンボ校が開校したのを大正15年2月としているが、公認登録申請がそれより後になされていて（Bunkyo 0425）矛盾する。また、カピンザル校が1920年代初めからあったような記述（Bunkyo 0001）も他の文書の記述と一致しない。早崎家文書中にはカピンザル校の経営に関する文書は、本文に言及した2点しか含まれておらず、キロンボ校に比べ不明点を多く残すが、他の資料による確認は今後の課題としたい。
- (5) ここでいう「キロンボ」とは第二四区一帯の地名であり、他所の同一地名との混同に注意したい。詳細は後述の第3章「キロンボ童夢倶楽部記録」の注（1）を参照。
- (6) 州令第4101号、1926年9月14日、第344条c項目。サンパウロ州立法院（<https://www.al.sp.gov.br/repositorio/legislacao/decreto/1926/decreto-4101-14.09.1926.html>）。
- (7) さきに触れた田中の公認教師手続申請書や学校維持費補助に関する書類（Bunkyo 0427）などサンパウロ日本人学校父兄会に提出する書類には俸給120ミルレイスと記載されたが、毎月の給料受領記録で確認できるのは70ミルレイスのみである。
- (8) 1935年ごろ第二部学校の日語教員であった横谷久は、小学校専科正教員、高等小学校准教員の資格をもち、在職7年目の月給が250ミルレイスであった（「レジストロ第二部小学校概要」、松村栄治関係資料102-13、国立国会図書館憲政資料室）。
- (9) その後、キロンボ混合学校は早崎ロッテから田代ロッテに移転した。1940年生の田代家の老翁が就学したときにはすでに同家ロッテ内に学校があったという。学校の移転は戦争中におこなわれた可能性が高い。
- (10) アロイシオ・ローゼンはレジストロ植民地の日系社会に影響力のあった神言会の神父である。
- (11) 州令第4101号第335条、1926年9月14日 サンパウロ州立法院（<https://www.al.sp.gov.br/repositorio/legislacao/decreto/1926/decreto-4101-14.09.1926.html>）。



## 2 レジストロ植民地第二四区 学校関係資料

表3 第二四区日語学校経営覚

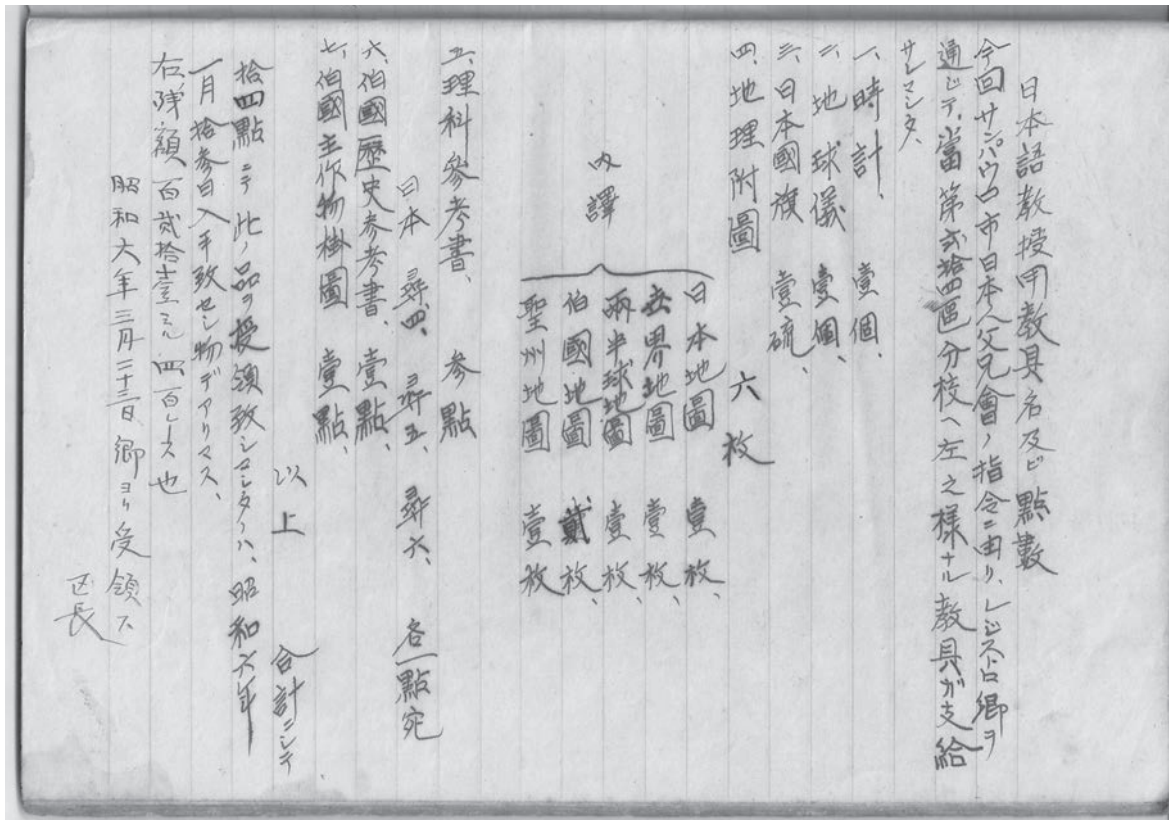
資料番号	表題	概要	年	月	日
Caderno A0001	昭和六年度第貳拾四區分校内日本語科設置之内容	教員・児童数・授業内容・経営など	1931		
Caderno A0002	月謝負担額	月謝負担額・所在地・氏名			
Caderno A0003	日本語教授用教具名及び点数	第二四区分校に郷から支給された教具の受領書 B0478 に伯語明細あり	1931	3	23
Caderno A0004	昭和六年三月一日日本語教授始業式ヲ興行ス	始業式の場所・日時・式次	1931	3	1
Caderno A0005	第貳拾四区分校日本語教授始業式祝賀会寄附之記	収入（寄附された品物・金額）と支出（購入品目）	1931	3	1
Caderno A0006a	天長節奉祝々賀會寄附金	寄附金額と支出			
Caderno A0006b	授業料／昭和六年三月分	各戸授業料納入日、教員給料支払日、3 月分	1931	3	
Caderno A0007	授業料／[昭和六年] 四月分	各戸授業料納入日、教員給料支払日、4 月分		4	
Caderno A0008	昭和六年度	収支決算書、1931 年 3 月～6 月	1931	11	
Caderno A0009	授業料／[昭和六年] 五月分	各戸授業料納入日、教員給料支払日、5 月分		5	
Caderno A0010	授業料／[昭和六年] 六月分	各戸授業料納入日、教員給料支払日、6 月分		6	
Caderno A0011	昭和六年六月三十日次年度区長高市太郎氏ニ事務及ビ繰越残額 99 円 6 百レース引渡候也	区長の引継、橋本留治署名	1931	6	30
Caderno A0012	昭和六年七月日本語学校通学児童数	児童名、年齢、履修科目、家長名	1931	7	
Caderno A0013	昭和六年七月自拾貳月至授業料徴集及教員給料之支拂覺	各戸授業料納入日、教員給料支払日、1931 年 7 月～12 月	1931	12	
Caderno A0014	自昭和七年貳月至全年六月教員給授業料出納覺へ	各戸授業料納入日、教員給料支払日、教育費寄附、1932 年 2 月～6 月	1932	6	
Caderno A0015	昭和六年自七月／支出之部	支出内訳、1931 年 7 月～1932 年 6 月	1932	6	
Caderno A0016	昭和六年年度末学校費差引残り 104\$100Rs 也	次年度（昭和 7 年度）繰越金の確認、副区長松本覚治署名	1931		
Caderno A0017	昭和六年度自七月／収入之部	収入内訳、1931 年 7 月～1932 年 6 月	1932	6	
Caderno A0018	1932 年六月二十九日第二四区会計松本覚次ヨリ引継ギ収領セシモノ	収支決算書、1932 年 7 月～12 月	1932	6	29
Caderno A0019	1932 年六月二十九日第二四区会計松本覚次ヨリ引継ギ収領セシモノ	支出明細、1932 年 7 月～12 月、教員給料支払日 A0018 の続き	1933	1	20
Caderno A0020	収入／昭和七年七月后毎月授業料児童一人六円二人八円宛以上納入額ハ学校維持費寄附ナリ	各戸授業料納入日、1932 年 7 月～12 月	1932	10	9
Caderno A0021	収入／昭和七年七月后毎月授業料児童一人六円二人八円宛以上納入額ハ学校維持費寄附ナリ	各戸授業料納入日、1932 年 7 月～12 月 A0020 の続き			
Caderno A0022	革命事件突発臨時寄附募集	護憲革命時、日系人赤十字団後援会加入者による寄附の記録	1932	7	30
Caderno A0023	昭和七年七月革命事件中警報ノ爲メ第三部内青年團ノ盡力ヲ大ナル故後援トシテ下記ノ通り寄附募集ス	護憲革命時の第三部青年団尽力に対する慰労金の寄附の記録	1932	7	30
Caderno A0024	1933 [年] 一月八日 第二四区集会開ク 昭和七年七月后十二月マデ下半キ分	郷費、郵便費、1932 年 7 月～12 月、革命時供出、戸数割、支払日	1933	1	14
Caderno A0025	1933 [年] 一月八日 第二四区集会開ク 昭和七年七月后十二月マデ下半キ分	郷費、1932 年 7 月～12 月、革命時供出、支払日 A0024 の続き	1933	1	8
Caderno A0026	昭和八年一月式拾日	未収金、区費立替など、高市太郎区長から吉川喜之作新任会計に引継	1933	2	5
Caderno A0027	第貳拾四区邦語学校経営維持法方	教員給料予算、授業料値上げ、戸数割負担額	1932	12	18
Caderno A0028	第貳拾四区邦語学校経営維持法方	教員給料予算、授業料値上げ、戸数割負担額（A0027 の続き）	1932	12	18
Caderno A0029	第二四区邦語学校教員雇フ約束ス	岡野弥吉の採用面接と雇用契約	1933	1	23
Caderno A0030	昭和八年二月日本語学校通学児童数	未収金、区費立替など、高市太郎区長から吉川喜之作新任会計に引継。日本語学校通学児童数	1933	2	5
Caderno A0031	昭和八年二月日本語学校通学児童数	未収金、区費立替など、高市太郎区長から吉川新任会計に引継。日本語学校通学児童数 A0030 の続き	1933	2	5
Caderno A0032	昭和八年二月自六月至／授業料徴集及教員給料之支拂覺	各戸授業料納入日、教員給料支払日、1933 年 2 月～6 月	1933	6	25



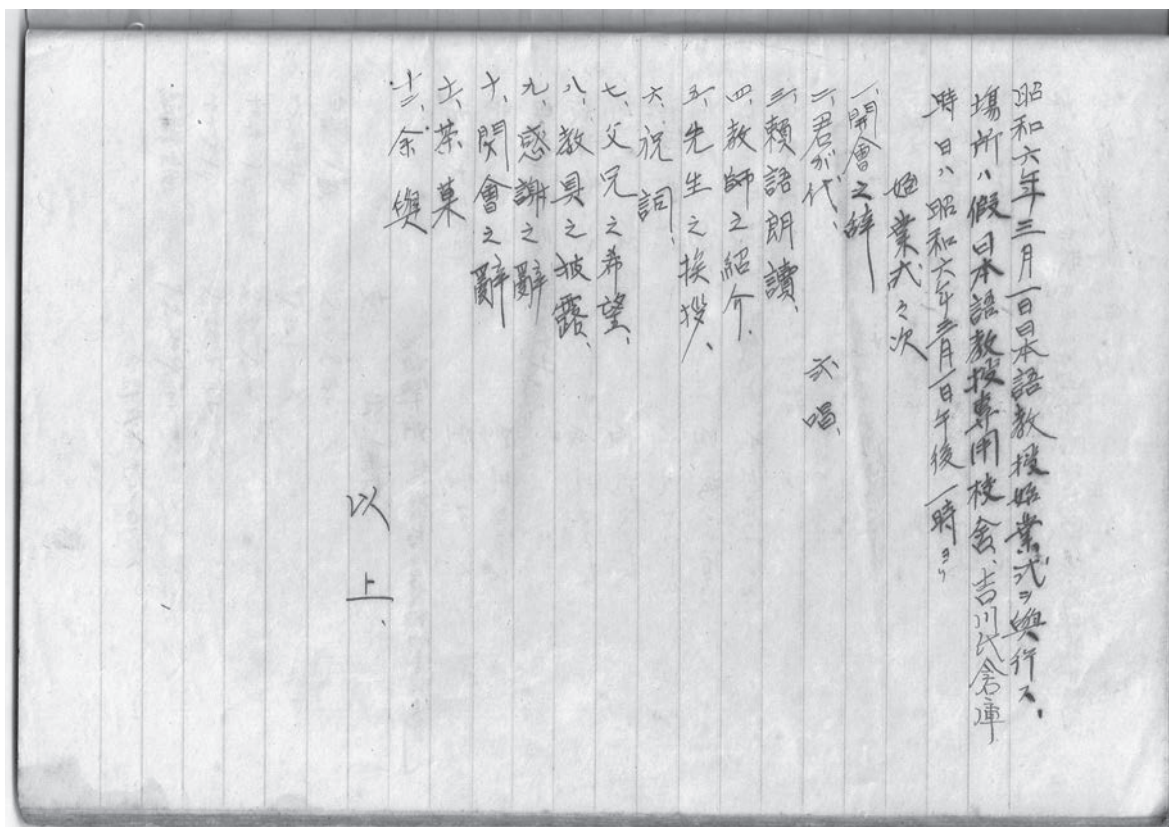
資料番号	表題	概要	年	月	日
Caderno A0033	昭和八年二月自六月至／邦語経営維持 區費徴集 覺	各戸学校維持費納入日、戸数割、1933年2月～6月 A0032の続き	1933	6	25
Caderno A0034	千九百参拾参年六月拾八日邦語学校ニ於テ區會開 カル	邦語校消耗品費内訳（1933年1月～6月）	1933	6	18
Caderno A0035	千九百参拾参年六月拾八日邦語学校ニ於テ區會開 カル	役員報酬、役員改選、サンパウロ父兄会補助金、 未払金 A0034の続き			
Caderno A0036	千九百参拾参年六月拾八日邦語学校ニ於テ區會開 カル	区費と維持費、戸数割と持株数、役員手当支払日 A0035の続き	1933	7	2
Caderno A0037	1933年6月28日夜講堂ニテ區會	郷費（1933年1月～6月）、郵便費（1933年7月 ～）、戸数割	1933	7	2
Caderno A0038	昭和八年二月ヨリ六月マデ	学校関係収支決算書（1933年2月～6月）	1933	7	2
Caderno A0039	昭和八年二月ヨリ六月マデ	伯語学校修繕費内訳、サンパウロ父兄会教員住宅 建築補助金、区費収支決算計算、繰越金。 A0038の続き	1933	7	2
Caderno A0040	1933年六月三十日第二十四區々長高市太郎ヨリ 引継ぎ収領セシモノ	繰越金、補助金残額、未納金	1933	6	30
Caderno A0041	1933年7月1日ヨリ拾貳月末日マデ	消耗品内訳（1933年7月～12月）	1933	12	30
Caderno A0042	昭和八年自七月拾貳月至／授業料及ビ維持費區費 徴収及教員給料支払覚	各戸授業料および学校維持費納入、教員給料支 払、1933年7～12月	1933	12	30
Caderno A0043	昭和八年拾貳月／區費及郷費徴収割当表	各戸区費、郷費支払日、戸数割	1933	12	30
Caderno A0044	教員住宅建築費總額	教員住宅建築費内訳			
Caderno A0045	昭和八年七月ヨリ拾貳月マデ	収支決算書、1933年7～12月	1933	12	30
Caderno A0046	昭和九年壹月 六月至／授業料及維持費ノ徴収 教員給料支払覚	各戸授業料および学校維持費納入、教員給与支払 い、1934年1～6月	1934	6	30
Caderno A0047	前期分／昭和九年七月后拾貳月マデ	区費支出内訳（元旦、紀元節、天長節、役員手 当、郵便費（7月～12月）ほか）	1934	12	29
Caderno A0048	昭和八年度後期郷費及ビ區費割当徴収表	区費戸数均等割、郷費戸数割、教員住宅建築出 役、支払日（1933年7月）	1933	7	28
Caderno A0049	第二十四區邦語小学校／授業料及割維持費割当表 ／自昭和九年七月至昭和九拾二月	各戸授業料および学校維持費納入、教員給料支払 日（1934年7～12月）	1934	12	
Caderno A0050	昭和九年度後前期分區費及郷費割当表	区費戸数割持株数、愛国婦人会寄付	1934	3	5
Caderno A0051	昭和拾年貳月拾壹日講堂ニテ區會開ク	授業料改訂、学校維持費戸数割	1935	2	11
Caderno A0052	昭和十年度前期分區費及郷費割当表	区費均等割、東北凶作義捐金納入	1935	6	9
Caderno A0053	昭和十年一月六月至／授業料及維持費割当表	各戸授業料および学校維持費納入日、教員給与支 払日（1935年1～6月）	1935	6	23
Caderno A0054	昭和十年一月后六月マデ／區費用	支出内訳（地歴教科書、区長手当、郵便費（1935 年1～6月）、先生サントス出張費ほか）	1935	6	
Caderno A0055	昭和拾年度授業料及維持費之各戸負担額ト徴集明 記	授業料および学校維持費各戸納入および教員給与 支払（1935年7月～9月）（持株数総計160）	1935	9	
Caderno A0056	昭和九年度分郷費割當金	前期郷費戸数割、高市太郎送別費（持株総数 138）	1934		
Caderno A0057	昭和拾年度分郷費割當金	前期郷費戸数割、後期郷費戸数割（持株総数 140）	1935	7	29
Caderno A0058	總工費清算書	邦語教員住宅建設費の内訳	1933	7	12
Caderno A0059	建築工事設計書	邦語教員住宅建材の寸法・本数	1933	7	12
Caderno A0060	報告書	邦語教員住宅建設の報告書	1933	7	30
Caderno A0061	建築工事設計書 No. 4	邦語教員住宅建材の寸法、本数、価格	1933	7	12
Caderno A0062	總工事費清算書 No. 6	邦語教員住宅建設費の内訳（訂正あり）	1933	7	12
Caderno A0063	總工事費清算書 No. 6	邦語教員住宅建設費の内訳（訂正前）	1933	7	12
Caderno A0064	報告書	邦語教員住宅建設の報告書（訂正あり）	1933	12	31
Caderno A0065	報告書	邦語教員住宅建設の報告書（訂正前）	1933	12	31







Caderno A0003 日本語教授用教具名及び點數



Caderno A0004 昭和六年三月一日日本語教授始業式ヲ興行ス



昭和六年度			
収入部		支出部	
3/1 授業式島津金	29.500	3/1 増量式其他経費	29.700
3/23 又足会補助金贈與	727.400	3/24 三月份教員給	70.000
4/26 三月份授業料	76.000	4/26 学校用品	7.800
4/26 四月份授業料	76.000	4/26 八校二十四年分 給本一歩 7%	37.000
4/26 天長節祝賀金附金	38.500	4/26 金 同給分	70.000
5/24 田中 3%	60.000	4/22 四月份教員給	70.000
4/29 湯沢氏 天長節祝賀金	20.000	4/27 天長節祝賀金	33.500
6/18 五月份授業料	76.000	4/29 校代 12% 手帳代 4% 計 16%	60.000
6/18 六月份授業料	76.000	5/2 紙	2.000
4/20 年度末教員手当	50.000	5/26 五月份教員給	70.000
合計	605.400	6/7 学校用品	2.000
		6/23 六月份教員給	70.000
		4/11 年度末教員手当	50.000
		合計	505.800
		差引繰額	99.600

Caderno A0008 昭和六年度（収支決算書）

昭和六年七月日本語学校通学児童数			
早崎 茂吉	2名	蔡雅	10才 日語
着池 尚行	3名	久子	16才 日語
小宮山 克之	2名	信江	11才 日語
田代 栄三	2名	邦雄	11才 日語
奥田 章子	2名	義次	10才 日語
吉川 若之作	2名	賊子	15才 日語
宮下 丑花	2名	竹	8才 日語
橋本 留治	1名	伯幸	11才 日語
柳 梅弥作	1名	美子	10才 日語
田中 以勢	1名	標 (湯沢氏子長女)	10才 日語
安藤 恒治	2名	三好	11才 日語
奥山 栄次	2名	信行	11才 日語
松本 栄次	2名	一家	10才 日語
		安東	9才 日語
		見習三名	8名
		日本語	11名
		日語	8名

Caderno A0012 昭和六年七月日本語学校通学児童数



[illegible]

**Caderno A0013** 昭和六年七月自拾貳月至 授業料徵集及教員給料之支拂覺

[illegible]

Caderno A0014 自昭和七年貳月至全年六月 教員給授業料出納覺へ



昭和六年自七月  
支出之部

月 日	摘 要	金 額	備考
七月九日	教員住宅建築費=実地筆記帳一冊買	1,000	
七月 日	児童日記帳に子帳20冊	9,000	
七月三十一日	用費一冊	800	
七月 日	児童用算術表代紙替(田中表紙) (替紙代紙)	21,000	
九月七日	相互記念館祝賀記念品銀三	9,000	
合 上	(50冊)金記念品が(九)デールが	3,400	
十月拾日	学校用フロッグ 2冊	4,000	
	学校用ハクボク 2箱	5,600	
七月一書日	新年式祝賀用菓子2k	6,000	
二月十一日	記念館祝賀用菓子代	10,000	
<del>七年二月二日</del>	<del>新年式祝賀用菓子代</del>		
七年五月拾四日	フロッグ 1冊	2,500	
"	フロッグ 2冊	2,000	
"	ハクボク 2箱	3,400	
"	封筒 1把	1,000	
"	色鉛筆 1打	1,000	
"	赤ペン 1打	1,000	
七年六月三日	掃帚 2打	4,800	
七月十三日	伯語校修理費三枚代	6,000	
	計	91,500	







昭和七年七月后毎月授業料児童一人六針二人八針宛以上納入額ハ学校維持費寄附ナリ									
児童数	氏名保薦者	毎月額	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
7	松本覚治	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	36,000
2	菊地尚信	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	48,000
7	田代栄三	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	45,000
7	橋本留治	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	36,000
7	小宮山亮一	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	45,000
2	奥山幸三郎	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	48,000
7	宮下丑花	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	36,000
2	田中政勝	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	48,000
2	早崎茂吉	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	66,000
7	奥山繁治	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	30,000
7	安藤徳治	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	30,000
合計 15		79,800	79,800	79,800	79,800	79,800	79,800	79,800	488,000

Caderno A0020-A0021 収入／昭和七年七月后毎月授業料児童一人六針二人八針宛以上納入額ハ学校維持費寄附ナリ

昭和七年七月后毎月授業料児童一人六針二人八針宛以上納入額ハ学校維持費寄附ナリ									
児童数	氏名保薦者	毎月額	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
7	松本覚治	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	36,000
2	菊地尚信	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	48,000
7	田代栄三	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	45,000
7	橋本留治	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	36,000
7	小宮山亮一	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	7,500	45,000
2	奥山幸三郎	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	48,000
7	宮下丑花	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	36,000
2	田中政勝	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	48,000
2	早崎茂吉	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	66,000
7	奥山繁治	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	30,000
7	安藤徳治	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	30,000
合計 15		79,800	79,800	79,800	79,800	79,800	79,800	79,800	488,000



昭和七年十二月十八日 正會 天澤

教員給料科月額毎月貳百圓以上入雇入豫算

又各等級附以斷言受提スルコト

就学要書対し授業料徴収スルコト

就學兒童 一家一名 每七名定授業科

孔聖見毒一家二子拾子碗授業科

就學兒童一家三名每月拾圓研究授業科

昭和八年一月以後就學児童十四名豫定

授業科收入豫集毎月九拾貳圓

中級筆劃，收入彙每月百〇八針

上礼通り協定して各戸負担承諾を以下に通り

毎月徴収する客員 一個対ハ而シ一死百四十個

金部四〇〇

金二里08 依林之柳坡

二四〇〇 南山集後

全四八〇〇 松本管治藏

金五十六

金五十一 柳橋強作

余士四

五十四

金小市街

全九六〇 小宮山基一

$$\begin{array}{r} 55200 \\ \hline \end{array}$$

55,200

亦二加三和德字校維持方法收入豫案

金一=000 平山亭長志跋

金一冊四〇〇 吉川糸之作破

金一田四比 田中政勝後

金拾六〇〇〇 田代榮三氏

以上合計金 712,000

通作

10





昭和八年二月五日	
現金百六十八針百レズ	168,100
未収金百四十一針百レズ	141,800
還費立替田十針百レズ	10,600
	350,100
昭和八年二月日本語学校通学児童数	
家長	
宮下五藏	富美子
早崎茂吉	茂雅
	察雅
	貞枝
	五枝
	三好
安藤徳治	ササエ
	コトミ
吉川喜之作	伯幸
	博
柳橋弥作	キコ
	光雄

昭和八年二月日本語学校通学児童数	
家長	
松本寛治	一家
	安家
	三久
菊池尚信	信江
	静野
田代栄三	栄一
	義次
	シズ
橋本留治	皇美
	フサ
奥山栄次	正子
	君子
	夢子
小宮山堯一	文雄
	邦雄
	幸雄
奥山幸三郎	茂
	鉄雄
	セツコ
田中重勝	勝雄
	信雄



[illegible]

**Caderno A0032** 昭和八年二月自六月至／授業料徴集及教員給料之支拂覺

[illegible]

**Caderno A0033** 昭和八年二月自六月至／邦語經營維持 區費徵集覺















昭和拾年貳月拾壹日講堂ニテ區會開ク									
授業料割當=付下記ノ如ク決定ス									
授業料									
姓名	金額	一月	二月	三月	四月	五月	六月	合計	
日本語通学1人	7,000	2人	10,000	3人				13,000	
日伯兩語通学1人	3,000	2人	4,000	3人				5,000	
日語1人日伯2人	11,000	2人	10,000	2人				17,000	
日語1人日伯1人	9,000	2人	10,000	3人				18,000	
日語1人日語2人	12,000	2人	10,000	3人				15,000	
日語1人日伯3人	12,000	2人	10,000	3人				15,000	
日語2人日伯2人	16,000	2人	10,000	3人				15,000	
日語3人日伯1人	15,000	2人	10,000	3人				15,000	
安藤徳治	4,000	2人	4,000	2人				8,400	
松本覺治	4,800	2人	4,800	2人				8,000	
菊池尚信	8,000	2人	8,000	2人				18,400	
田代崇三	5,600	2人	5,600	2人				9,600	
橋本留減	9,600	2人	9,600	2人				8,800	
小宮山亮一	8,800	2人	8,800	2人				14,400	
奥山幸三郎	14,400	2人	14,400	2人				6,400	
奥山信孝	6,400	2人	6,400	2人				16,000	
田中正勝	12,000	2人	12,000	2人				12,000	
宮下且藏	2,400	2人	2,400	2人				2,400	
吉川喜久作	2,400	2人	2,400	2人				2,400	
早崎茂吉	2,400	2人	2,400	2人				2,400	
佐々木三太郎	2,400	2人	2,400	2人				2,400	

Caderno A0051 昭和拾年貳月拾壹日講堂ニテ區會開ク

昭和十年 一月六月至									
授業料及維持費割當表									
姓名	金額	一月	二月	三月	四月	五月	六月	合計	
田代崇三	27,400	納	納	納	納	納	納	納	
吉川喜久作	26,400	納	納	納	納	納	納	納	
田中正勝	21,400	納	納	納	納	納	納	納	
早崎茂吉	26,400	納	納	納	納	納	納	納	
奥山幸三郎	18,400	納	納	納	納	納	納	納	
小宮山亮一	18,400	納	納	納	納	納	納	納	
菊池尚信	17,400	納	納	納	納	納	納	納	
宮下且藏	18,400	納	納	納	納	納	納	納	
橋本留減	8,600	納	納	納	納	納	納	納	
松本覺治	7,800	納	納	納	納	納	納	納	
佐々木三太郎	2,400	納	納	納	納	納	納	納	
安藤徳治	6,400	納	納	納	納	納	納	納	
奥山信孝	11,400	納	納	納	納	納	納	納	
柳橋留減	5,600	納	納	納	納	納	納	納	
合計6ヶ月分	208,400	498,000	208,400	208,400	208,400	208,400	208,400	208,400	
岡野先生	150,000	納	納	納	納	納	納	納	
工又ア先生	30,000	納	納	納	納	納	納	納	

Caderno A0053 昭和十年一月六月至／授業料及維持費割當表



昭和拾年度授業料及維持費之各戸負担額ト徴集明記							拾月以後徴集無シ
氏名	授業料	維持費	負担額	七月	八月	九月	
田代 栄三	10,000	22,500	32,500	入	入	入	
吉川 喜之作	7,000	18,000	25,000	入	入	入	
田中正 勝	7,000	18,000	25,000	入	入	入	
小宮 山光一	4,000	14,000	18,000	入	入	入	
早崎 茂吉	16,000	13,500	29,500	入	入	入	
菊池 尚信	4,000	11,000	15,000	入	入	入	
奥山 幸三郎	7,000	10,800	17,800	入	入	入	
宮下 丑藏	4,000	10,800	14,800	入	入	入	
橋本 留治	4,000	7,000	11,000	入	入	入	
松本 増次	4,000	7,800	11,800	入	入	入	
安藤 徳治	6,000	2,400	8,400	入	入	入	
佐々木 三太郎	4,000	2,400	6,400	入	入	入	
奥山 信行	—	2,800	2,800	入	入	入	
計	77,000	144,000	221,000	入	入	入	
日語教師岡野弥生先生俸給片額	支	180,000	180,000	納	納	納	ナ
日語校務言語擔任教師月謝及給額	支	30,000	30,000	納	納	納	ニ
維持費(調花欄八九百四十五)係數合計可大松株							
田代 25個 菊池 13. 安藤 3.							
吉川 20. 奥山 12. 松本 3.							
田中 20. 宮下 12. 奥信 3.							
小宮 16. 橋本 10. 計 160株							
早崎 15. 松本 8.							

Caderno A0055 昭和拾年度授業料及維持費之各戸負担額ト徴集明記

總工費精算書				一九三三・七・十二調	
摘要事項	支出金額				
屋敷地均	十四分	七	〇	〇	〇
土台石(山石)運搬人夫賃	七五	〇	〇	〇	〇
材料一切	六四六	二	〇	〇	〇
瓦代	二八八	〇	〇	〇	〇
大工賃銀	四〇〇	〇	〇	〇	〇
金物類(釘、錠、螺、番)	七〇	〇	〇	〇	〇
夕テマ八人夫賃	七〇	〇	〇	〇	〇
壁付人夫賃	五〇	〇	〇	〇	〇
壁小舞付人夫賃	五〇	〇	〇	〇	〇
總計	一七一九	二	〇	〇	〇
以上中共同作業出役為不支出金					
トニテ引去ル	二四五	〇	〇	〇	〇
差引現金支出額	一四七四	二	〇	〇	〇
備考: 壁塗り未完成					

Caderno A0058 總工費清算書





總工務費總額 21.---

## 報告書

1. 學校名稱及所在地

名稱 <sup>(附註)</sup> 19210 第24區人學校

所在地 19210 總民地第24區第2小區(附註)

2. 經營者、姓名及名稱

姓名 文冬全

代表者 文冬全

名稱 19210 第24區第2小區(附註)

3. 敷地運動場等購入地、坪數及所在地

坪數 600坪

所在地 第24區田中政勝氏所有地(附註)

4. 建築工事設計書及(附註)(附註) 到所附註

5. 工事着手及竣工年月日

工事着手 1933年7月15日

(竣工) 1933年12月31日

6. 總工事費(總費及取費) 精算書

7. 補助金額及其使途明細

補助金額 1,165,200.00

使途 2,600.00 (新活校所經費)

350,000.00 (機轉修費20人分)

建築費補助 1,104,200.00 (新活校所經費)

8. 補助金申請目的

教員住宅建築



表 4 第二四区自治会文書—学校関係

資料番号 (Bunkyo +)	表題	内容	年	月	日	受信		発信	
Bunkyo 0001	[第二四区小学校直轄の嘆願]		1932	2	23	サンパウロ日本人父兄會		第二四区小学校後援会会長	高市太郎
Bunkyo 0002	[第二四区小学校直轄の嘆願]		1932	2	23	サンパウロ日本人父兄會		第二四区小学校後援会会長	高市太郎
Bunkyo 0003	[第二四区小学校直轄の嘆願]		1932	2	23	サンパウロ日本人父兄會		第二四区小学校後援会会長	高市太郎
Bunkyo 0004	[第二四区小学校直轄の嘆願]		1932	2	23	サンパウロ日本人父兄會		第二四区小学校後援会会長	高市太郎
Bunkyo 0027	年末区費及郷費等負担別	区費・郷費負担額、戸数割	1932	6	26				
Bunkyo 0028	昭和六年七月ヨリ全七年六月迄 伯語学校庭園■並除草出役覚	除草作業などの出席状況	1931						
Bunkyo 0031	[区会記録]	5月20日、6月7日、6月20日 日本語教場の建材の製出者、区長 選挙の結果	1931	5	20				
Bunkyo 0032	[区会記録]	6月30日、7月5日、12日、19日 吉川区長就任固辞、除草作業、講 堂建築寄附募集		7	19				
Bunkyo 0034	父兄會趣意大要	団体の親密、父兄生徒の接近、混 合学校の後援	1931	12	28				
Bunkyo 0037	1930 年後半期	郷費・授業料・区費、戸数割	1930						
Bunkyo 0062	発一一三號	第二四区分校の伯国公認申請に つき条件となる運営方法の確認	1932	2	10	第二四区分校代 表者	高市太郎	レヂストロ郷	
Bunkyo 0067	発一三一號	第二四区分校の伯国公認登録手 続につき郷司による説明のための 区会召集	1932	2	20	第二四区区长	高市太郎	レヂストロ郷	
Bunkyo 0069	[外務省指定学校調査書の通知]	革命による配送不備の確認と提出 期限の通知	1930	10	30	小学校		サンパウロ日本 人学校父兄會	
Bunkyo 0073	[伯語学校一週間休校の通知報告]			8	29	第二四区区长	高市太郎		宇賀山勝
Bunkyo 0074	誓約書（控書）	第二四区日本語小学校の伯国公認 登録申請に向けた運営に関する誓 約書	1932	3	21	レヂストロ郷司	丸山爲治	レヂストロ第二 四区区长小学校 代表者・右々学務 委員・右々教師	高市太郎・ 松本覚治・ 田中正勝
Bunkyo 0075	誓約書	Bunkyo 0074 の下書き	1932	3	21	レヂストロ郷司		レヂストロ郷第三 部々長・全三部学 校学務員・全二 四区小学校教員・ 全二十四区々長	荒崎進・今 野常治・田 中正勝・高 市太郎
Bunkyo 0076	誓約書（控写）	Bunkyo 0074 の写し	1932	3	21	レヂストロ郷司	丸山爲治	レヂストロ第二 四区区长小学校 代表者・第二四 区学務委員・第 二四区区学校教員	高市太郎・ 松本覚治・ 田中正勝
Bunkyo 0079	[伯国教員申請に対する返答]	公認登録手続き近し 別紙 Bunkyo 0089	[1932]	2	10		高		渡邊常太郎
Bunkyo 0081	第貳拾四區小學校昭和八年度基礎 經營方法	教員給料、授業料割当額、不足分 の区費戸数割	1932	12	18				
Bunkyo 0082	第貳拾四區小學校昭和八年度基礎 經營方法	Bunkyo 0081 の続き	1932	12	18				
Bunkyo 0089	[伯国教員申請に対する返答]	第二四区からの申請を郷へ依頼 Bunkyo 0079 の別紙				第二四区区长	高市太郎	第三部部長	荒崎進
Bunkyo 0099	炊事場ノ建築出役	出役者名簿(伯人2名含む計10名)		4	16				
Bunkyo 0101	[雑記]	建築に関する収支のメモ							
Bunkyo 0112	Escrevo-vos esta pedindo ao sen- hor ter a bondade	伯文、2月1日始業につき児童登 校連絡の依頼	1932	1	28	伯語学校父兄会長	高	伯語校教員	Ana Sant'Ana
Bunkyo 0113	Escrevo-vos esta pedindo ao sen- hor ter a bondade	Bunkyo 0112 の裏面（宛名）	1932	1	28	伯語学校父兄会長	高	伯語校教員	Ana Sant'Ana
Bunkyo 0117	サンパウロ日本人學校父兄會 イグアベ地方部會所属学校並二會 員評議員役員名簿	所属学校、役員、評議員の名簿							
Bunkyo 0126	[教育寄附金送り状]	部長退職時の謝礼金を教育費とし て第二四区に寄附		9	20	第二四区		元第三部部長	丸山数馬
Bunkyo 0127	第七三號	海興産業部より寄贈の『幼学綱 要』の配布	1935	10	11	第二四区校教師		レヂストロ郷 事務所	
Bunkyo 0136	[視学官対応に関する提案]	日語校公認登録は未了につき視学官 視察時には未開校扱いとすること	1931	11	13		高		渡邊常太郎
Bunkyo 0147	[第三部から第二四区の分離に関 する請願]	郷司松村宛請願書の写しの転送	1935	12	15	第二四区区长	田中正勝	第三部部長	小山伴造
Bunkyo 0169	Venho por meio desta fazer sciente a VS	伯文、薪の提供、学校敷地の柵囲 と除草、井戸の屋根掛けと足場の セメント敷作業の依頼	1928	2	4	第二四区学務委員	田中正勝	伯語学校教員	Heilda Cardoso
Bunkyo 0170	Venho por meio desta fazer sciente a VS	伯文 Bunkyo 0169 の続き	1928	2	4	第二四区学務委員	田中正勝	伯語学校教員	Heilda Cardoso
Bunkyo 0177	[雑記] 学校ノ先生ヨリ申シ越シノ件	伯語校設備の整備ほか							



資料番号 (Bunkyo +)	表題	内容	年	月	日	受信		発信	
Bunkyo 0178	記 吉川喜之作氏高市太郎氏区長幹部会々催	カビンザル混合学校予算、教員報酬、教員補充計画、学校整備計画、補助金申請額 Bunkyo 0205 に言及の調査依頼への返答	[1927]	9	25				
Bunkyo 0179	記 吉川喜之作氏高市太郎氏区長幹部会々催	Bunkyo 0178 の続き	[1927]	9	25				
Bunkyo 0180	[補助金下附に際しての提出物についての提言]	補助金下附に関連して、部長の調査請求に対する答申書を提出することを推奨 Bunkyo 0205 に言及の調査依頼か	[1927]			第二四区区長	田中正勝	第二四区副区長	松本
Bunkyo 0181	[雑記] 次年度ニ要ス可キ補助ノ理由ニ就キ記ス	補助金申請のための次年度必要経費の算出	[1927]						
Bunkyo 0196	第二十四区 [世帯票]	吉川家の家族構成員と年齢							
Bunkyo 0197	[世帯票]	橋本家の家族構成員と生年月日							
Bunkyo 0198	[世帯票]	古木家の家族構成							
Bunkyo 0199	[世帯票]	菊地家の家族構成員							
Bunkyo 0200	[妻の病気のため集会欠席の事後連絡と謝罪]			9	20	第二四区区長			高市太郎
Bunkyo 0201	第貳拾四区々員氏名表	トラホーム検査用名簿 Bunkyo 0202 の続き	1927	9	21	第三部部长	小山伴造	第二四区区長	田中正勝
Bunkyo 0202	第貳拾四区々員氏名表	トラホーム検査用名簿 Bunkyo 0201 へ続く	1927	9	21				
Bunkyo 0203	発第五四号	家長名・人員数の調査の依頼	1927	10	17	第二四区区長	田中正勝	レジストロ郷	
Bunkyo 0205	[審議事項および区会開催問い合わせ]	第三部長小山伴造より依頼の小学校現況調査、郷費低減請願、種痘の実施に関する協議を求める提言 Bunkyo 0178-0179 にて返信、 Bunkyo 0180 に言及の調査請求か	1927	9	1	第二四区副区長	松本	[第二四区区長]	田中
Bunkyo 0218	[第二四区学校人夫]	Bunkyo 0219 の続き	1927	6	19				
Bunkyo 0219	[第二四区学校人夫]	Bunkyo 0220 の続き 大正 15 年 6 月～7 月	1927	6	19				
Bunkyo 0220	[第二四区学校人夫]	Bunkyo 0221 の続き	1926	3	27				
Bunkyo 0221	[第二四区学校人夫]	Bunkyo 0222 の続き 大正 15 年 3 月～6 月	1926	3	27				
Bunkyo 0222	[第二四区学校人夫]	大正 15 年 2 月 3 月	1926	2	11				
Bunkyo 0223	[第二四区学校人夫]	Bunkyo 0224 の続き 非日系 3 名含む	1926	8	17				
Bunkyo 0224	第貳拾四区學校人夫	出役出欠一覽、大正 14 年 8 月 9 月、15 年 2 月	1925	8	17				
Bunkyo 0225	[第二四区学校人夫]	Bunkyo 0226 の続き	[1925]						
Bunkyo 0226	[第二四区] 學校人夫	通学者 1 名あたり 8 ミルにて戸族代価一覽、車代	[1925]						
Bunkyo 0232	[雑記] [建築部材、節菓子代]	学校建築の用材、便所屋根瓦、紀元節菓子代などの計算	1832	2	10				
Bunkyo 0233	第廿四区学校教員住宅建設見積り	見積総工費、寄附金及び芳名の一覽	1931	7	19				
Bunkyo 0234	第廿四区学校教員住宅建設見積り	Bunkyo 0233 の裏面	1931	7	19				
Bunkyo 0235	教師公認手續請願書	田中正勝の日本語教師として公認申請	1932	1	18	第三部部长	荒崎進	第二四区区長	高市太郎
Bunkyo 0236	24 区講堂寄附負担各自差引見分	建物工費 2 コントス 353 ミル 800 レイスより補助金 1 コントスを差引き、13 家族の寄附額に割当て、材料費などの負担を差し引いて過不足算出	1932	2	8				
Bunkyo 0237	24 区講堂建設人夫出役表	外人日当 3.5 ミル、日本人 5 ミルにて計算し割当て平均額との過不足を算出。特別寄附として他区住民 4 家族の出役あり	1932	2	8				
Bunkyo 0238	講堂建設材料及各自引請明細表	建築材料の手配分担と負担額の算出	1932	2	8				
Bunkyo 0239	講堂建設費決算報告書	建物 2 コントス 233 ミル 800 レイス、人夫 761 ミル 800 レイス、総工費 3 コントス 115 ミル 600 レイス。特別寄附として人夫 21 人歩、大工手習 10 人歩。大工岡田義一	1932	2	14				
Bunkyo 0241	講堂建設出役人夫	日本人 5 ミル、伯人 3.5 ミルの日当にて人夫代総額を算出、人夫特別寄附を差引き、残額を 13 戸で平均割り							
Bunkyo 0242	第貳拾四区講堂建設報告	13 戸の予定寄附額、寄附金割当歩合、材料出勤総額、差引超過額、差引不足額、釘払い下げ一覽	1932	2	14				
Bunkyo 0243	第貳拾四區分校 建築具体案	桁、梁など建築部材の寸法、材質、値段など	1931	5	20				



資料番号 (Bunkyo+)	表題	内容	年	月	日	受信		発信	
Bunkyo 0244	第貳拾四區分校教員住宅建築具体議案	間口6間、奥行3間、切妻、18坪。梁、棟、棟木、桁、梁ほか建築部材の寸法、形状、値段など							
Bunkyo 0246	第貳拾四區／日本語学校教員給贈呈通知書	2月～6月、受領日一覧	1932			日本語教師	田中正勝	第二四区会計	松本覺次
Bunkyo 0247	受取證	9月分月給70ミル	1931	9	25	第二四区副区長	松本覺次	[第三部分校教員]	宇賀山勝
Bunkyo 0248	領収書	国語学校手続（公證）費用	1933	1	12	第二四区校代表者	高市太郎		渡邊常太郎
Bunkyo 0249	受領證／第貳拾四區邦語小學校授業料昭和七年度後半期分	7月～12月、受領日一覧、俸給月額70ミル	1932			日本語教師	田中正勝	第二四区邦語小學校後援会長兼第二四区区長	高市太郎
Bunkyo 0252	第貳拾四區邦語小學校所有地附圖	第276号地内600坪、田中正勝より永久寄附。捺印、略図あり	1931	9	7	第二四区区長	高市太郎	第二四区第276号地区主	田中正勝
Bunkyo 0253	寄附覺書	第276号地内600坪、田中正勝より永久寄附。捺印あり	1931	9	7	第二四区区長・区員御一同	高市太郎	レヂストロ植民地第二四区第276号地主・家内一同	田中正勝
Bunkyo 0254	受領證	11月分月給70ミル	1931	11	15	第二四区副区長	松本覺治	[第三部分校教員]	宇賀山勝
Bunkyo 0255	受領證	10月分月給70ミル	1931	10	25	第二四区副区長	松本覺次	第三部分校教員	宇賀山勝
Bunkyo 0256	受領証	8月分月給70ミル	1931	8	24	第二四区副区長	松本覺次	[第三部分校教員]	宇賀山勝
Bunkyo 0257	領収證	7月分月給70ミル	1931	7	24	第二四区副区長	松本覺次	[第三部分校教員]	宇賀山勝
Bunkyo 0260	(封筒) 田中正勝氏ヨリ之講堂建設敷地六百坪之寄附覺書在中	封筒							
Bunkyo 0271	父兄會々則（譯文）（一）	キロンボ混合学校（伯語学校）父兄会の結成に際しての会則翻訳文の提供と結成の報告	1931	10	21	第二四区区長	高市太郎	第二四区小學校学務委員	田中正勝
Bunkyo 0272	父兄會々則（譯文）（二）	Bunkyo 0271の続き	1931	10	21	第二四区区長	高市太郎	第二四区小學校学務委員	田中正勝
Bunkyo 0273	父兄會々則（譯文）（三）	Bunkyo 0272の続き	1931	10	21	第二四区区長	高市太郎	第二四区小學校学務委員	田中正勝
Bunkyo 0274	A Associação de Pais e mestres no. 1	父兄会会則の原文	1931	10	20				田中正勝
Bunkyo 0275	A Associação de Pais e mestres no. 2	Bunkyo 0274の続き	1931	10	20				
Bunkyo 0276	A Associação de Pais e mestres no. 3	Bunkyo 0275の続き	1931	10	20				
Bunkyo 0282	[雜記] 学校建築費寄附	総額8コントス、第一〇区より74.5ミル、第二四区15戸（伯人ラハフル含む）							
Bunkyo 0283	[雜記] 学校建築費寄附	Bunkyo 0282の続き							
Bunkyo 0284	第二十四区	第二四区12家族の通学児童計17名の名簿、生年。教師 Flir 氏。							
Bunkyo 0285	Nota de Ajuda Escola (学校掃除人夫出役記)	ブラジル人7人、日本人10人の名簿	1927	3	6				
Bunkyo 0287	[教育問題に関する諸調査依頼 (9項目)]	Bunkyo 0288の別紙	1931	8	15				
Bunkyo 0288	[教育問題に関する諸調査依頼]	調査の経緯	1931	8	15	第二四区区長	高市太郎	第三部部長	荒寄進
Bunkyo 0295	[封筒]	161ミル、8月8日入と追記	1926	6	23	第三部分教場キロンボ小學校父兄会会長	吉川喜之作		
Bunkyo 0297	第參部分教場建築寄附及ビ維持	建築寄附の部（8月1日）既支出金額、12戸。							
Bunkyo 0299	請願書（控え）	第三部キロンボ小學校落成につき教師派遣のために伯国政府による公認手続き依頼 Bunkyo 0425の下書き	1926	10	18	レヂストロ郷司	菊池团平	第二四区区長代理	奥山幸三郎
Bunkyo 0301	[受領書]	建材費、大工手当、但し学校の仕事、93ミル。	1926	10	18		高市太郎		吉川喜之作
Bunkyo 0302	Recebi Rs 150,000	150ミル領収	1926	9	12		橋本留次		Raphael Moreira
Bunkyo 0303	[領収書]	釘、チンタ、国旗、43ミル、菅山鷺造商店。		9	19		田中正勝		菅山鷺造
Bunkyo 0304	[学校用釘代の精算に関する依頼]	会計田中による支払済の追記		9	10		田中		橋本
Bunkyo 0307	[世帯票]	菊地家の家族構成員と生年							
Bunkyo 0310	[領収書]	ブロック、封筒、カデルノ、3ミル、菅山鷺造商店				第三部分校所	橋本		菅山鷺造
Bunkyo 0314	[分教場建設費寄附に関する申し出]	分教場建設費の寄附遅れ謝罪、取りあえず31ミル先納、区内取り集め8月30日まで延期願ひ	1926	6	23	キロンボ小學校父兄会会長	吉川喜之作	第九区長	
Bunkyo 0329	学校庭園掃除と動人夫表	出役状況と名簿、昭和4年7月～昭和5年6月	1930	7	30				
Bunkyo 0331	[雜記]	手元高の計算表、昭和3年度戸数割（14戸4等級）	1928						



資料番号 (Bunkyo +)	表題	内容	年	月	日	受信		発信	
Bunkyo 0332	第参部分教場會計	1926 年 5 月～7 月の収入、日本政府補助金 1 コントス、会社預金(補助金) 900 ミル	1926	7	17				
Bunkyo 0335	[領収書]	セメント・ボラシヤ、55.5 ミル、菅山商店		7	17	第三部分校所			菅山鷺造
Bunkyo 0338	[領収書]	蝶番、ネジ、帳簿、32 ミル、菅山商店		7	6	第三部分校所			菅山鷺造
Bunkyo 0339	記	500 ミル預かり、建材、瓦代の支払い残金の受け渡し記録	1926	6	21				宮下丑藏
Bunkyo 0340	第貳拾四区内區費分校建築寄附者芳名並金額	Escola do Kirombo、氏名伯語表記。田中政勝、維持費基金として追加寄附あり							
Bunkyo 0341	第壹回第参部分教場建設會計報告	収入 1 コント 906 ミル、支出 1 コント 717 ミル	1926	7	25			父兄会長	橋本留治
Bunkyo 0345	[通章] 第貳號 昭和拾年七月参拾日發	仁戸田郷司辞任に伴う改選、佐々木長女通学、郷費戸数割に関する通知	1935	7	30		佐々木三太郎、橋本留治、田代栄三、菊池尚信、松本覺次	第二四区区長	
Bunkyo 0346	[通章] 第貳號 昭和拾年七月参拾日發	高市太郎送別会費、岡野先生と伯語先生昇給、学校除草、奥山幸三郎の持株の通知 Bunkyo 0345 の続き	1935	7	30		佐々木三太郎、橋本留治、田代栄三、菊池尚信、松本覺次	第二四区区長	
Bunkyo 0349	學校調査 (外務省指定調査事項)(寫し)	学校の所在、人員、教育内容、経営に関する調査 16 項目、12 月 20 日提出期限		12	20				
Bunkyo 0350	學校調査 (外務省指定調査事項)(寫し)	学校調査の回答に関する補足説明 Bunkyo 0349 の続き		12	20				
Bunkyo 0352	辞表	岡野弥吉の辞表	1935	9	8	第二四区区長	田中正勝	教師	岡野彌吉
Bunkyo 0357	[各種業務の連絡]	8 月分日伯両先生の給料 210 ミル同封、支払いの依頼。橋本氏の教育維持費の戸数割り、区費割当てと株数を混同誤解して過重につき謝罪。日伯語校の月例除草、欠勤者あり監督もなく問題多し。通信網、郵便袋を区の規定にて毎週巡回により公德心の向上へ	1935	8	27	[第二四区] 区長	田中正勝		松本覺次
Bunkyo 0363	[各種業務の連絡]	高氏送別会費、橋本分領取済み。伯語教員 5 月分給与支払い確認。郷費負担額の通知依頼。授業料受け取り確認。岡野からの領収書の受け取り確認	1933	6	25		田中正勝		松本覺次
Bunkyo 0374	通章第五號 発昭和拾年九月拾日	区内集会開催通知、土曜午後 7 時より講堂にて。議題、岡野離職につき学校経営方法、公認教師。郷からの通知、商店営業時間変更、失踪馬探索願ひ	1935	9	10		安藤徳次、奥山幸三郎、奥山信行、小宮山堯一、田中正勝	第二四区区長	
Bunkyo 0375	[伊藤氏教員採用打診]	待遇については譲歩提案							
Bunkyo 0376	[区会招集の願出]	岡野の後任教師に関し彼の推薦者について内容に情報収集、至急臨時区会を開催する提案	1935	9	11		田中正勝		松本覺次
Bunkyo 0416	部内小学校児童の身体検査の通達	区内全児童(伯国児童を含む)を指定日時に第三部小学校への引率を依頼	1930	9	27	第二四区区長	橋本留次	第三部部長	生森源二
Bunkyo 0422	学校維持費の用途に関する伺い	日本政府より学校維持下付金通牒あり、教員俸給充当および教材の用途にて希望教材の選定と報告依頼	1930	11	14	第二四区区長	橋本留次	レジストロ郷	渡邊常太郎
Bunkyo 0423	学校除草欠勤扣	昭和 4 年度分五年度分 各戸欠席回数	1930						
Bunkyo 0425	請願書	第三部キロンボ小学校落成につき教師派遣のために伯国政府による公認手続き依頼	1926	10	18	レジストロ郷司	菊池団平	第二四区区長代理	奥山幸三郎
Bunkyo 0426	第廿四区小学校造作設計日数	第二四区小学校の窓や戸口の工賃、総額 457 ミル 600 レイス請取の記録	1926	7	9	第二四区区長	橋本殿		林
Bunkyo 0427	学校維持費補助受領者ヨリ提出すべき報告事項	第二四区邦語小学校からの報告書 15 項目	1932	3					
Bunkyo 0428	実業補習学校設置に関する意見書	新設校について通学の公平性の観点から市街地でなく植民地中央に置くか、奥地在住者用の寄宿舎を併設すべきという意見書	1931	1	19	第三部部長	池守源治	第二四区区長	橋本留次



資料番号 (Bunkyo +)	表題	内容	年	月	日	受信		発信	
Bunkyo 0429	[日本語教授に関する請願書への返答]		1931	1	28	キロンボ小学校 学務委員	田中正勝	第三部部长	池森源二
Bunkyo 0452	[雑記]	14 戸の戸数割 6 等級と割当額計算、総額 117.8 ミル		3	18				
Bunkyo 0455	昭和五年度下附学校維持補助金使途計算書（雛型）	受領額 1 コント 300 ミル、教材購入費	1931	3	20			第二四区代表者	
Bunkyo 0456	領収証（雛型）	昭和 5 年度学校維持費補助金 1 コント 300 ミル	1931					レヂストロ植民地第二四区分校代表者	
Bunkyo 0458	[教材費不足分の送金の催促]		1931	4	9	レヂストロ郷第二四区小学校		サンパウロ日本人学校父兄會 学校父兄會	
Bunkyo 0467	[受領書]	教材入箱代 60 ミル	1931	4	29		田中正勝	第二四区区長	橋本留次
Bunkyo 0473	[学校維持費の交付に伴う諸連絡]	学校維持費 1 コント交付につき領収証返送指示。使途は全額教員の待遇改善に、ただし教材教具の要望あれば考慮。4 月 15 日までに別紙項目について報告書要提出。Bunkyo 0474 に別紙報告項目あり、提出された報告が Bunkyo 0427 か	1932	1		レヂストロ第二四区小学校代表者	高市太郎	サンパウロ日本人学校父兄會	
Bunkyo 0474	学校維持費補助金受領者ヨリ提出すべき報告事項	全 15 項目 Bunkyo 0473 の別紙、Bunkyo 0427 が提出された報告か	1932	1		レヂストロ第二四区小学校代表者	高市太郎	サンパウロ日本人学校父兄會	
Bunkyo 0475	学校経営費又ハ維持費補助申請書	全 24 項目	[1931]			サンパウロ日本人父兄會		第二四区分校後援会会長	橋本留治
Bunkyo 0476	学校経営費又ハ維持費補助申請書	Bunkyo 0475 の続き	[1931]			サンパウロ日本人父兄會		第二四区分校後援会会長	橋本留治
Bunkyo 0477	学校維持補助金ノ件	使途報告書（Bunkyo 0455）及び領収証（Bunkyo 0456）提出の督促	1931	3	20	第二四区区長	橋本留次	レヂストロ郷	渡邊常太郎
Bunkyo 0478	[明細書]	教材教具（国旗、地図ほか）14 点、税と総量込み総額 1 コント 170 ミル 300 レイス	1931	1	13			サンパウロ日本人父兄會	
Bunkyo 0480	学校維持補助金不可理由	補助金交付不要と判断した要因の列挙							
Bunkyo 0491	キロンボ小学校寄付者氏名及ビ金額	第三部第一〇区 23 戸寄附一覧、総額 745 ミル	1927	6	30	第二四区会計	高市太郎	第一〇区	小山伴造
Bunkyo 0501	1932 年七月后授業料収入記	7 月～12 月の各戸授業料領収日および毎月の授業料一覧	1932	12	12				
Bunkyo 0502	[無断通学者への注意に関する通達の転送依頼]		1928	2	24	第二四区区長	田中正勝	第三部部长	小山伴造
Bunkyo 0505	各戸等級負担個数割	区費戸数割、区費 110 ミルを計 140 株で割り、14 戸各戸の持株との積を一覧。他に児童授業料 14 名分月額 90 ミル							
Bunkyo 0506	[区会議事録]	同日伯語校除草作業、安中末次郎の写真撮影延期、補充教員募集状況報告、12 月 28 日区会流会	1933	1	8				
Bunkyo 0508	第二十四区邦語教育ニ関スル協議事項	田中正勝の辞職後の邦語教育の方針について	1932	12	18			第二四区区長	高市太郎
Bunkyo 0513	[受領証]	講堂建築請負のうち刻大工の手間代 10 工分 30 ミルの寄附払戻しの受領書	1932	4	6		岡田義一	第二四区副区長	松本覚次
Bunkyo 0514	教員住宅建築助成に関する通知	教員住宅建築助成を見合わせていたが、サインパウロ日本人学校父兄會昭和 6 年度学校（建築増改築）補助金の可能性ありにつき大至急の応募手続き推奨		3	25	第二四区区長	小宮山堯一		渡邊常太郎
Bunkyo 0516	[無断通学者への注意に関する通達の転送]	Bunkyo 0502 の別紙	1928	2	25		小宮山堯一・橋本留治・高市太郎	第二四区区長	[田中正勝]
Bunkyo 0517	学校修繕費	修繕費内訳、総計 30 ミル					田中	区長	
Bunkyo 0519	キロンボ混合学校建築會計報告（一）	収入（補助金・寄附金）の内訳・金額							
Bunkyo 0520	キロンボ混合学校建築會計報告（一）（下書き）	収入（補助金・寄附金）の内訳・金額							
Bunkyo 0521	キロンボ混合学校建築會計報告（二）	支出（人件費・建材費など）の内訳・金額							
Bunkyo 0523	キロンボ小学校ノ落成式兼開校式會計	飲料ほか支出総計 146 ミル、寄附金および不足分 14 戸均等割にて支払い	[1927]	3	13				
Bunkyo 0524	学校登録届（下書き）	カビンザル混合学校の概況報告							
Bunkyo 0525	学校登録届（下書き）	Bunkyo 0524 の続き							
Bunkyo 0526	学校登録届（下書き）	Bunkyo 0525 の続き							













先般貴下へ續出したる貴区十中校の日語教シテ伺聞ひ格有公  
認全錄ヲ取付、件ニ云ハル概細通知ホクモヨリ申部部長ノ承認  
ヲ得、所及外右箇中礼ノ費込ト十分ノ解ッ得ル上ニ致シ、或ハ  
八二十人ハ丸山郷司、荒崎、命三部長四名合件、生員已ニ出城セラ  
ル、付中々多長折柄甚分目送被下、己令、以、昭示、日、夜中度  
時刻々々前九時了トシ、場外ニ生員下、於、日、没、交、上、二、五、日、建  
ニ郷事格下、日、通知、ト、主、下、村下、各、入

為、去、日、己、令、止、傷、心、事情ナリ、限、(金、買、家、長)、生、弟、ナル、様  
特、日、配、忘、日、夜、中、一、二、文、

Bunkyo 0067 發一三一號

市田の如く  
高市太郎様  
中は突然伯保殿より三々囃子の御座る校  
舎及び一因及休校致すとの報告を以て  
学務委員岡田中氏に謝し、係頭を以て中の所  
部視察より此れは事而サシテ其の之を以て日  
師範校出身教員成中トモボ学校に於て是  
御す可きなりと判り其れは一南及休校を以て  
迷憐には何等の支障も無之とも云ふこと  
中へ是に當りては却休せら下なむ  
古有の日暮技師等者今殊に始めとして柳松  
松市旧代々常山菊池宮下柳市奥の両家  
ある以上は此の二家に付て是明かり及  
以上の病氣に對しては尊重する重復の御事知  
ふ必要と思ふ所なり  
先方は此報を蒙れ斯に御座り  
外筆にて大抵申さる

**Bunkyo 0073** [伯語学校一週間休校の通知報告]

(控書)

誓約書

第ニ十四区日本語小學校ヲ伯國政府ハ公認<sup>手續</sup>件

昭和七年一月三十日郷(申請)承認<sup>手續</sup>件

郷會ハ決議ニヨリ承認相成<sup>手續</sup>件

司誓約書提出方申請相成<sup>手續</sup>件

項誓約し堅ク相守<sup>手續</sup>件

一今後日本語小學校維持費ハ郷費又ハ部費ヨリ

補助不仰<sup>手續</sup>件

二第ニ十四区小學校代表者ハ各部<sup>手續</sup>件

司ヲ代表者トシ他ノ各縣<sup>手續</sup>件

三第ニ十四区以外ヨリ入學<sup>手續</sup>件

ノ承認得<sup>手續</sup>件

四郷内部ニ對シ第ニ十四区小學校代表者ハ

ヲ以テナス事<sup>手續</sup>件

以上

昭和七年三月二十一日

レガストロ

高市令郎

松本覺治

田中政勝

郷司丸山為治殿



一九三〇年十二月十八日曜日 第貳拾四區小學校昭和八年度基礎經營方法

日本語教師 百八拾針 月額貳百針 徴集不足額ヲ以テ補充支拂ヒテス

伯語教師 貳拾針

授業科 徴集不足額ヲ以テ補充支拂ヒテス

授業科 徴集不足額ヲ以テ補充支拂ヒテス

一人 七針 二人 十針 三人 十四針

區費分担割當額 徴集月額 (百拾針ノス)

壹等級 田代繁次氏 比 20 十六針

貳等級 吉川喜三氏 比 18 十四針

參等級 田中正陽氏 比 16 十四針

四等級 早崎茂吉氏 比 15 十二針

五等級 山崎山虎一氏 比 12 九針

六等級 宮下且藏氏 比 10 八針

七等級 菊地富信氏 比 10 八針

八等級 橋本賢治氏 比 9 七針

九等級 宮下且藏氏 比 8 七針

十等級 松本繁次氏 比 6 四針

十一等級 安藤徳次氏 比 3 二針

十二等級 佐木嘉郎氏 比 3 二針

十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

二十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

三十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

四十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

五十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

六十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

七十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

八十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十一等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十二等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十三等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十四等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十五等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十六等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十七等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十八等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

九十九等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

一百等級 山崎山虎一氏 比 3 二針

第貳拾四區小學校會計帳簿

吉川喜三氏 三季報ス

毎月三季報ス後納メ付納

後任教師 暨 佐 高市大郡民 高市喜次氏 委任ス

Bunkyo 0081-0082 第貳拾四區小學校昭和八年度基礎經營方法



Sr. Vaka  
 Otencos Landações  
 Escrevo-vos esta pedindo ao senhor ter a bondade  
 a fundação de arizos as crianças que  
 na profina segunda feira, dia 10  
 estão na escola trabalhando novamente  
 ficando interamente grata  
 e esperando ser atendida  
 subscrito. e  
 Prof. Ana Jant' Ana  
 Capingal, 25/1/1956

Bunkyo 0112 Escrevo-vos esta pedindo ao senhor ter a bondade

第二十四区長  
 田中政勝殿  
 第三部長  
 小山伴造  
 拝啓 當部内ニハ度々ノ問題ニ有リシ所當已  
 ト分離ス事今回當方各員全部ノ協議  
 ノ決果分離ス事ニ決定仕リ矣間所カニ  
 承知下度矣尚レカストト郷ハ請願書在リ如ク  
 當方三部内ヲ西面ハ地理上何レカモ孤立セル位置ニ  
 アリ當方ト比較的隣接セル為メ方三部ニ編入其ノ  
 所轄ニ屬シ居ルモ政治上ニ経済上ニ適ク別箇狀  
 態ニ有リ其レカ為メ意志ノ疏通ヲ缺キ從來間々  
 問題ニ上リヌモ實現ニ到ラズ矣當方ト分離シ政事  
 上何等關係ナキコトニ到ラバ双方共ニ円滑ニ行クモ  
 ト思ヘナキ矣  
 今回當方協議決果分離方決配意願度比  
 較及請願書也  
 追テ今後方三部已開ス事項ハ直接交渉樹  
 立度具申ス矣  
 昭和十一年十二月十九日  
 第三部内方八日九日方十日方十一日方十二日  
 右代表者 小山伴造  
 レカストト郷司松村栄治殿

Bunkyo 0147 [第三部から第二四区の分離に関する請願]







氏名	年齢	性別	職業	住所	備考
山田 太郎	15	男	学生	山田町	
山田 次郎	12	男	学生	山田町	
山田 三郎	10	男	学生	山田町	
山田 四郎	8	男	学生	山田町	
山田 五郎	6	男	学生	山田町	
山田 六郎	4	男	学生	山田町	
山田 七郎	3	男	学生	山田町	
山田 八郎	2	男	学生	山田町	
山田 九郎	1	男	学生	山田町	
山田 十郎	0	男	学生	山田町	
山田 十一郎	0	男	学生	山田町	
山田 十二郎	0	男	学生	山田町	
山田 十三郎	0	男	学生	山田町	
山田 十四郎	0	男	学生	山田町	
山田 十五郎	0	男	学生	山田町	
山田 十六郎	0	男	学生	山田町	
山田 十七郎	0	男	学生	山田町	
山田 十八郎	0	男	学生	山田町	
山田 十九郎	0	男	学生	山田町	
山田 二十郎	0	男	学生	山田町	

Bunkyo 0223 [第二四区学校人夫]

教師公認手續請願書

貴邦之職意ニテ御奉力ニ依リ當第武振田色也  
 一、學校之日本語教授ハ第壹學年ニ於テ經續  
 致ニ申シ候共今後非公認之儘之經營ハ  
 絕對ニ不可存シ候ハ今因左記之氏ヲ招聘  
 致ニ當校日本語教授之經續ヲ夫行致ス  
 可ク今因區會ニ於テ決議致シ茲ニ教師公認之  
 手續御取扱ニ被下度右御願申上候也  
 一、姓名 田中正勝 三十一歳  
 明治五年五月拾月拾日生  
 二、學經歷 日本尋常高等小學校卒業  
 右御居ニ及ビ候也  
 三、資格 學自授目  
 四、來邦理由 高市大郎

上ノ口御  
 第三部長  
 荒崎進殿  
 教師資格底置鑑濟ノ具式  
 居生人 上ノ口御 第三部長 高市大郎  
 一、教員名 田中正勝  
 一、原籍 長門縣下郡和布刈村 年四十九  
 一、履歷 三限要 (1) 學歴 日本尋常高等小學校卒業  
 (2) 職歴 仙石町  
 一、親屬 父 長勝 母 長勝 妻 長勝  
 一、現任之職 高市大郎 高市大郎 高市大郎  
 一、今後之職 高市大郎 高市大郎 高市大郎

Bunkyo 0235 教師公認手續請願書



8-2-1932  
24區講堂寄附員担負額表(見分)

氏名	寄附金	材料費	現金出費	現金入金	合計
早崎茂吉	3500000	12500000	300000	1800000	1800000
宮下丑藏	1500000	—	30000	1800000	1800000
吉川茂作	3500000	1470000	—	1470000	2030000
田中正勝	3500000	2400000	10000	2400000	2400000
菊池高佐	1800000	1180000	10000	1180000	2980000
岡代栄三	3500000	1940000	30000	1940000	5440000
橋本留治	1500000	—	30000	30000	1800000
佐々木三郎	300000	260000	20000	260000	100000
小宮山孝一	2500000	2480000	—	2480000	4980000
奥山幸三郎	1500000	90000	30000	39000	1400000
奥山栄次	1100000	—	20000	20000	900000
柳橋三郎	1000000	—	20000	20000	800000
松本栄次	1600000	—	100000	100000	600000
合計	26800000	1994800	330000	2254800	
工事代金	26800000	—	—	—	—
材料費	—	1994800	—	—	—
現金出費	—	—	330000	—	—
現金入金	—	—	—	2254800	—
合計	—	—	—	—	—

工事代金 26800000  
材料費 1994800  
現金出費 330000  
現金入金 2254800  
合計 26800000

Bunkyo 0236 24 區講堂寄附員担各自差引見分

8-2-1932  
24區講堂建設人夫出役表

氏名	人数	出役日	出役時間	出役場所	出役内容	出役金額	合計
早崎茂吉	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
宮下丑藏	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
吉川茂作	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
田中正勝	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
菊池高佐	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
岡代栄三	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
橋本留治	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
佐々木三郎	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
小宮山孝一	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
奥山幸三郎	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
奥山栄次	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
柳橋三郎	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
松本栄次	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人
合計	14人	14人	14人	14人	14人	14人	14人

工事代金 26800000  
材料費 1994800  
現金出費 330000  
現金入金 2254800  
合計 26800000

Bunkyo 0237 24 區講堂建設人夫出役表

8-1932  
講堂建設材料各自引請明細表

氏名	材料	数量	金額
田代 栄三	土間煉瓦	645枚	64,500
	土間煉瓦	260枚	130,000
	土間煉瓦	150枚	75,000
田中 正勝	土間煉瓦	250,000	250,000
	土間煉瓦	269,000	269,000
	土間煉瓦	7,000	7,000
	土間煉瓦	4,500	4,500
	土間煉瓦	9,500	9,500
	土間煉瓦	400,000	400,000
	土間煉瓦	140,000	140,000
早崎 忠夫	土間煉瓦	32,000	32,000
	土間煉瓦	12,000	12,000
	土間煉瓦	64,000	64,000
	土間煉瓦	14,000	14,000
	土間煉瓦	45,000	45,000
	土間煉瓦	8,500	8,500
	土間煉瓦	140,000	140,000
	土間煉瓦	108,800	108,800
	土間煉瓦	39,000	39,000
	土間煉瓦	350,000	350,000
	土間煉瓦	49,000	49,000
	土間煉瓦	32,000	32,000
奥山 幸三郎	土間煉瓦	9,000	9,000
合 計			2,353,800

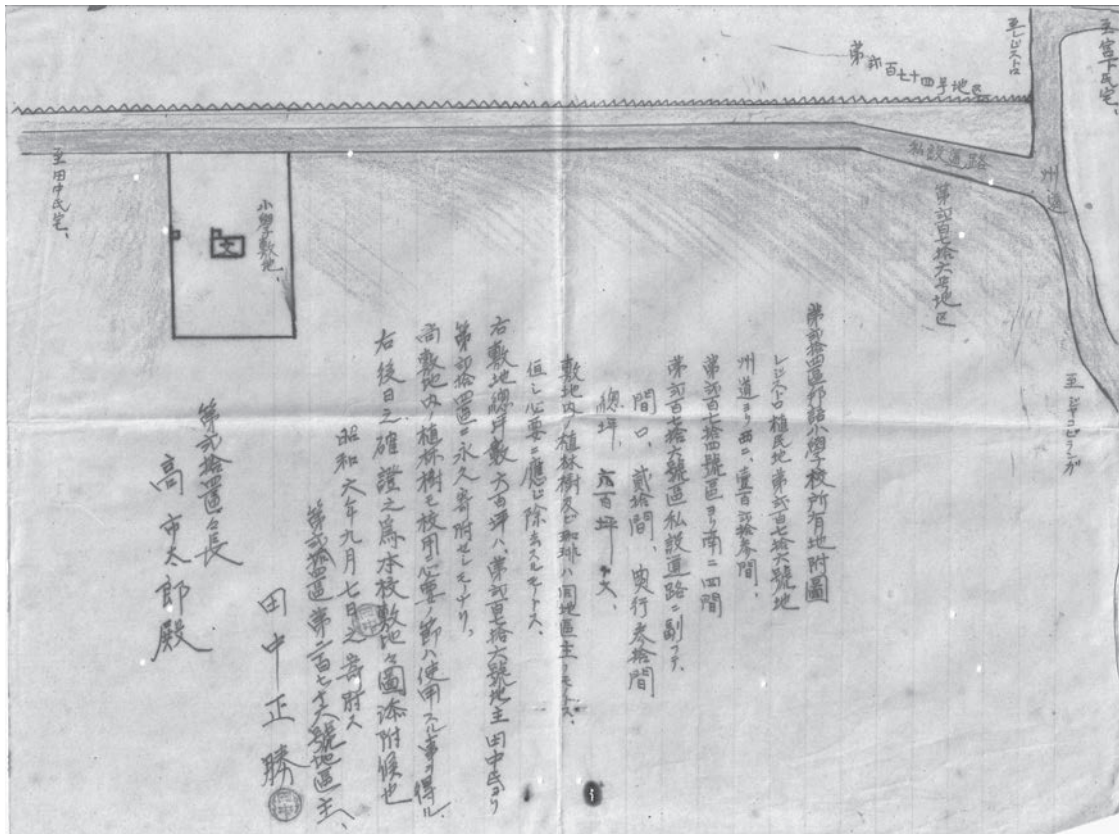
Bunkyo 0238 講堂建設材料及各自引請明細表

第拾四區分校 建築具具体案

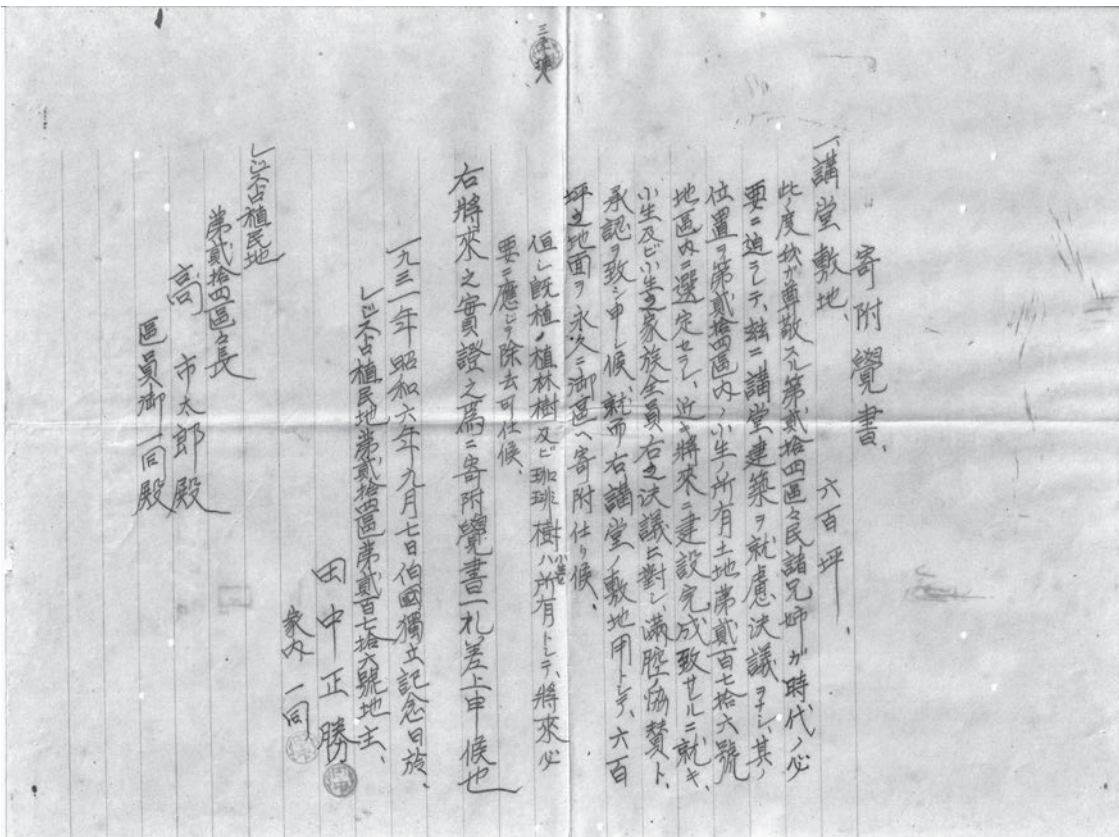
材料	数量	金額
土間煉瓦	645枚	64,500
土間煉瓦	260枚	130,000
土間煉瓦	150枚	75,000
土間煉瓦	250,000	250,000
土間煉瓦	269,000	269,000
土間煉瓦	7,000	7,000
土間煉瓦	4,500	4,500
土間煉瓦	9,500	9,500
土間煉瓦	400,000	400,000
土間煉瓦	140,000	140,000
土間煉瓦	32,000	32,000
土間煉瓦	12,000	12,000
土間煉瓦	64,000	64,000
土間煉瓦	14,000	14,000
土間煉瓦	45,000	45,000
土間煉瓦	8,500	8,500
土間煉瓦	140,000	140,000
土間煉瓦	108,800	108,800
土間煉瓦	39,000	39,000
土間煉瓦	350,000	350,000
土間煉瓦	49,000	49,000
土間煉瓦	32,000	32,000
土間煉瓦	9,000	9,000
合 計		2,353,800

Bunkyo 0243 第拾四區分校 建築具具体案



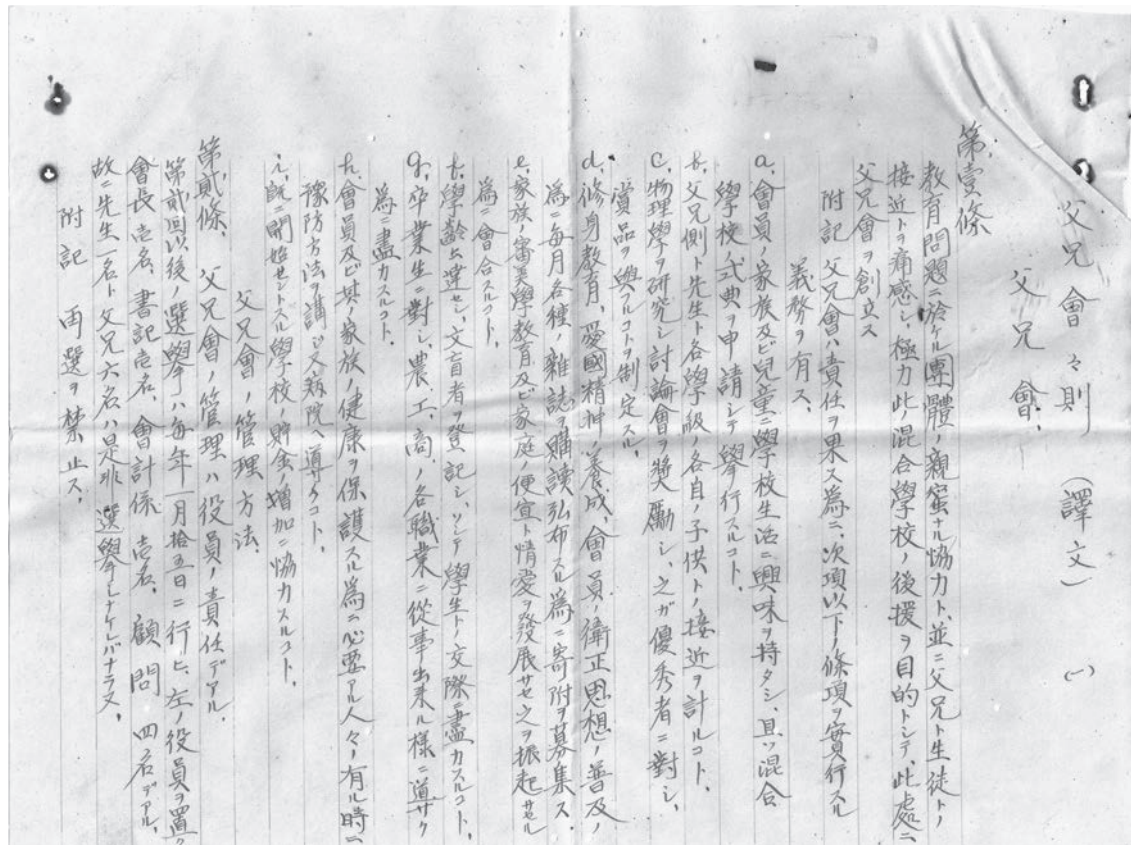


Bunkyo 0252 第貳拾四區邦語小學校所有地附圖

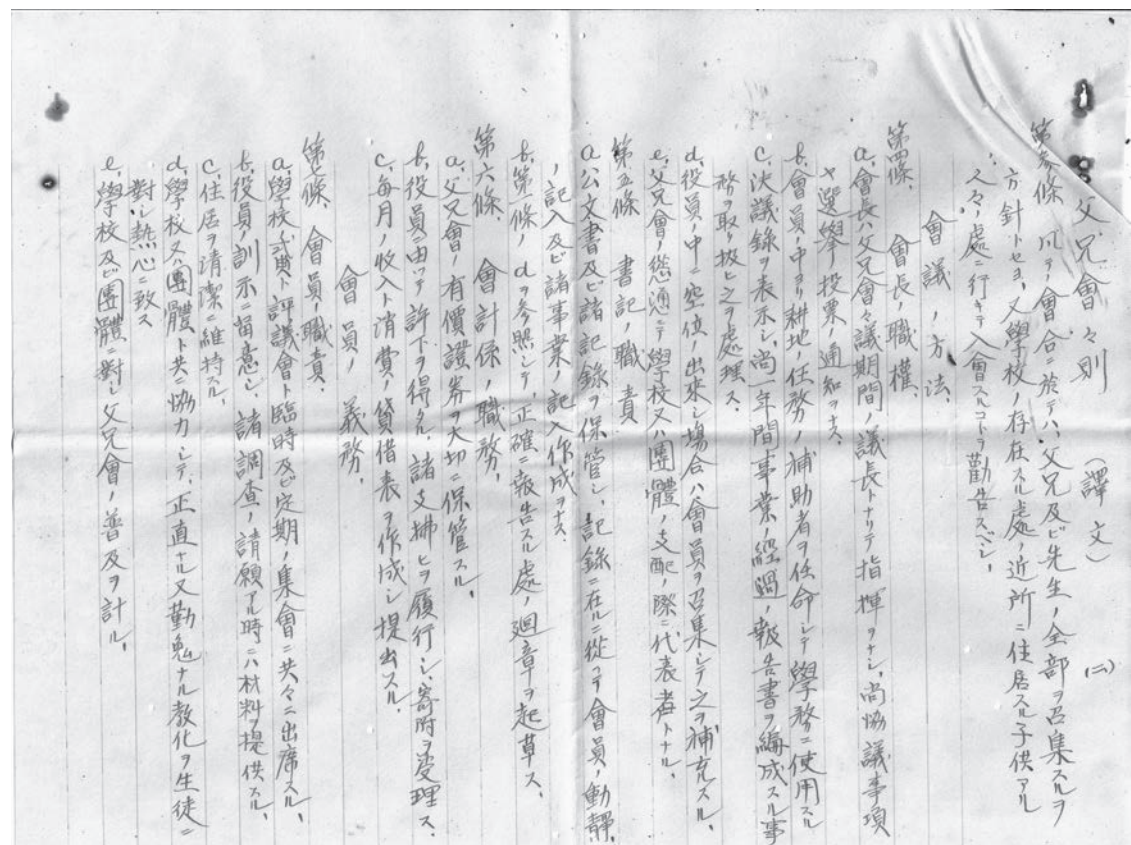


Bunkyo 0253 寄附覺書



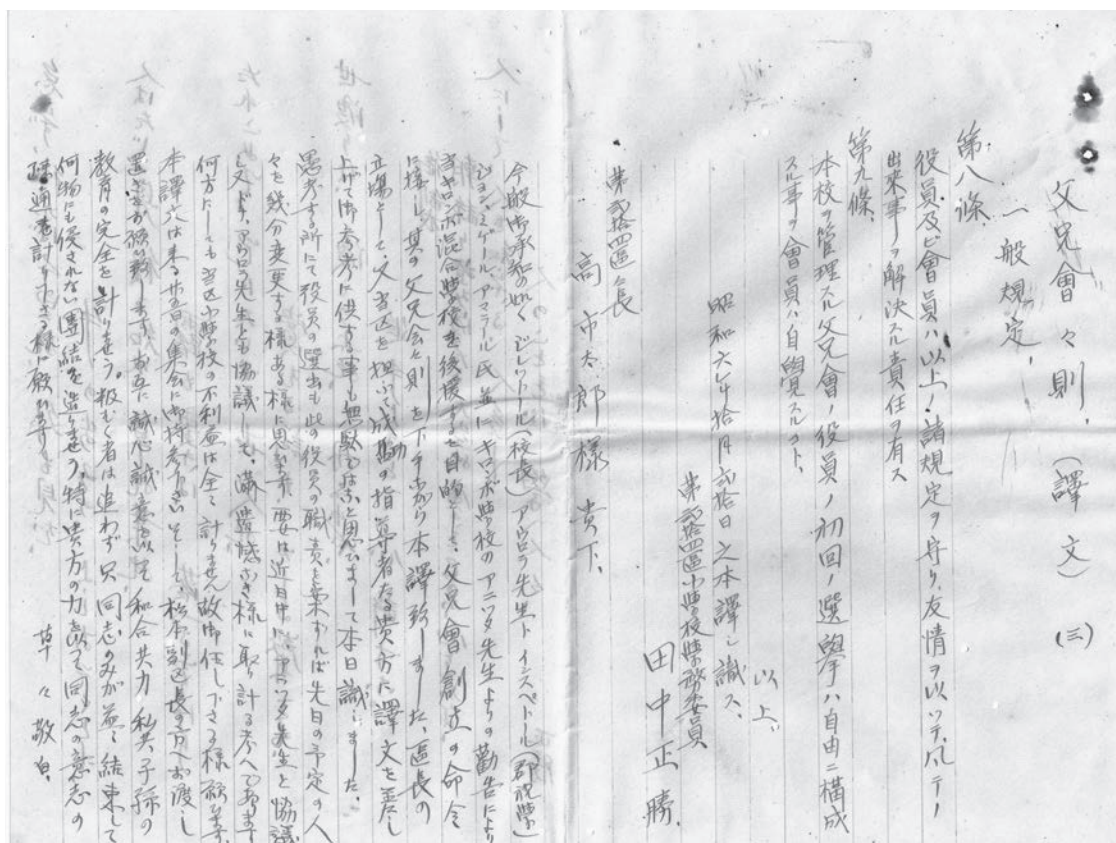


Bunkyo 0271 父兄會々則 (譯文) (一)

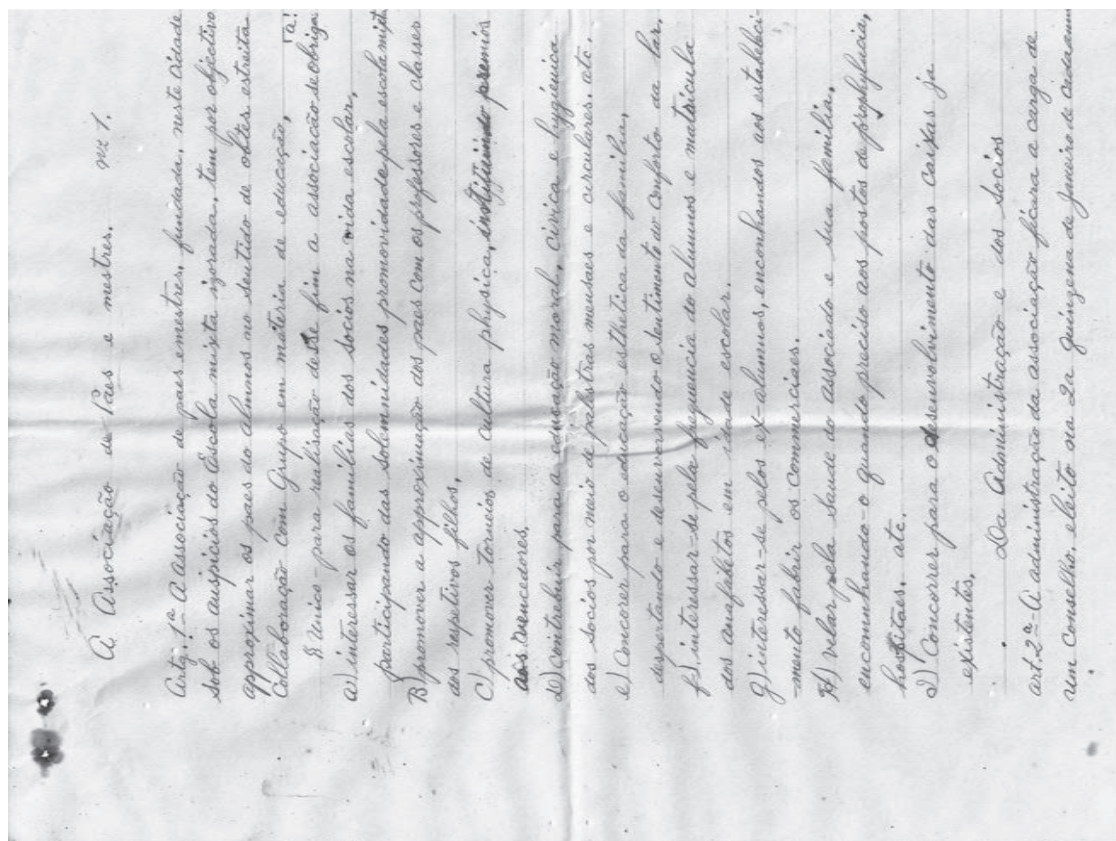


Bunkyo 0272 父兄會々則 (譯文) (二)





Bunkyo 0273 父兄會々則 (譯文) (三)



Bunkyo 0274 A Associação de Pais e mestres no. 1



*A Associação de Pais e mestres, n.º 2.*

Compõe-se de pais e professores, que escolherão, entre si, um presidente, um secretario, e um thesoureiro.

Unico poderão ser também considerados socios ex-alunos e pessoas residentes nos limites propostos. Onde existir escola, que form actas pelo conselho,

*Do Conselho.*

art. 4.º Compete ao presidente,

a) presidir as sessões, tomar parte nas discussões e votações

b) designar entre os socios commissões auxiliares nos trabalhos.

*Deveres de escolas.*

c) despachar o expediente, assignar as actas e organizar o relatório annual dos trabalhos.

d) convocar sessões para preenchimento cargos vagos no conselho e ser interprete, junto da direcção do Grupo ou escola, das suggestões de melhoria.

art. 5.º Ao Secretario Compete.

a) fazer a correspondencia social, redigir actas e ter sob sua guarda o archivo,

b) redigir circulares de que se refere a letra d do art. 4.º

art. 6.º Ao thesoureiro Compete.

a) conservar bens e valores da associação,

b) receber doações e effectuar os pagamentos,

c) apresentar mensalmente um balancete da receita e despesa.

Bunkyo 0275 A Associação de Pais e mestres no. 2

*A Associação de Pais e mestres, n.º 3.*

*Das obrigações dos socios.*

art. 7.º Dos socios Compete.

a) Comparar as reuniões mensaes ou extraordinarias do conselho e as solemnidades escolares,

b) attender as insturações do conselho e fornecer-lhe os informes quando solicitados,

c) manter a hygiene no lar;

d) gler pela actividade e pontualidade dos alumnos,

e) cooperar com o Grupo ou escola na obra de educação,

f) fazer a propaganda da associação e do Grupo ou escola.

*Disposições Gerais.*

art. 8.º Ao Conselho Compete resolver os casos omissoes deste regulamento.

art. 9.º Os membros componentes do primeiro Conselho serão de livre escolha da direcção da Escola mista.

..... termo.

Leuven, Amunio, Maranhão, Tanabara,

Delegado de Negocio de instrução

Escola Numero 24,

em Quilombo, forte N.º 24

Colonia de Registro,

Via 20 de outubro de 1931.

Bunkyo 0276 A Associação de Pais e mestres no. 3







学校总人数														
日期	姓名	性别	年龄	籍贯	职业	教育程度	健康状况	婚姻状况	宗教信仰	政治面貌	社会关系	其他	备注	合计
七月	刘	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
五	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
六	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
七	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
八	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
九	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十一	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
十二	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
一	张	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
二	李	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
三	王	男	20	吉林	工人	小学	健康	已婚	无	党员	有	无	无	1
四	张</													

Bunkyo 0329 学校庭園掃除と動人夫表

大正拾五年七月廿五日 調査員 父兄会長 橋本 角 1/2

第一 宣因 弟 弟部 分 教場 建設 會計 報告 (父兄會)

會計 報告 大正拾五年七月廿五日 現在

收入之部

金 但 貨 賣 コト 九百〇六 針 1.2 也

大 譯 金 賣 コト 九百 針 1.2 也

日本政府 補助 金 1.2 也

金 五 1.2 也

金 賣 1.2 也

前年度 區費 残額

支出之部

金 但 貨 賣 コト 七百 拾 七 針 1.2 也

大 譯 金 六 百 五 拾 針 1.2 也

ラトル氏 板石 灰 代 1.2 也

金 四 百 五 拾 1.2 也

造作 大工 費 1.2 也

金 貳 百 拾 1.2 也

瓦代 1.2 也

金 壹 百 拾 1.2 也

寄附 金 拾 1.2 也

金 七 拾 八 1.2 也

造作 金 具 代 針代 文房 具 代 會計 分 1.2 也

金 五 拾 四 針 1.2 也

金 五 拾 針 1.2 也

金 拾 貳 針 1.2 也

金 拾 針 1.2 也

島田氏 甘 煙 烟 雜 費 1.2 也

造作 工 中 食料 1.2 也

金 拾 九 針 1.2 也

外 金 賣 1.2 也

早崎氏 1.2 也

古木氏 1.2 也

Bunkyo 0341 第壹回第參部分教場建設會計報告







今般一身上、都合ニ依リ辞仕致シ  
 タノ候ニ付此段及御屋候也  
 昭和十年 九月八日  
 教師 岡野彌吉  
 萬里長  
 田中政勝殿  
 辞表  
 私儀

Bunkyo 0352 辞表

通章 第五號 癸卯拾年九月拾日 榮政政司長  
 安藤徳次様  
 奥山幸三様  
 奥山信行君  
 小宮山亮一様  
 田中正勝様  
 左記御八村之區外集會を開催致し、各位皆、様也、協  
 議を仰ぎ度く有、事、修、冬、拾四午後七時、  
 出席、下、さ、様、御、致、事、然、拾四日夜雨降、  
 協賛事項、  
 一、今園園幹先、生、が、じ、事、線、へ、所、修、住、ハ、就、キ、今、後、以、上、夜  
 の、協、賛、方、法、ヲ、件、  
 二、後、任、教、師、の、件、  
 一、當地各商店營業時間變更の件  
 一、日曜日は正午迄開店、正午後休業、  
 二、月曜日は正午迄休業、正午後開店、  
 三、普通日は午前七時開店、午後六時閉店、  
 四、國祭日は特に大祭日に限り休業とす、  
 五、中島川佐々所、有馬崎、  
 六、バスに、入、り、し、も、不、九、月、七、日、頃、より、行、衛、不、明、  
 七、年、茲、三、才、畢、九、時、茶、福、色、鼻、白、小、  
 八、不、似、た、馬、と、見、る、し、方、は、本、人、又、は、御、近、所、居、り、高、敷、致、事、  
 九、御、巡、視、上、出、回、送、下、さ、様、御、致、事、  
 以上、

Bunkyo 0374 通章第五號 癸卯拾年九月拾日







**Bunkyo 0427** 学校維持費補助受領者ヨリ提出スベキ報告事項

**Bunkyo 0429** [日本語教授に関する請願書への返答]



教科時目

學校所在地方在河邦人家族最  
相四族族





一九三三年一月八日 日曜日晴  
午前伯語校々庭除草 区員總出役  
安井銀造 師種板破損ノ爲メ 日語校舎再  
撮影ニ来区サレ生徒集メテ再撮影ス  
午後区會開ク  
一本年々学校教員雇へニ区長高市太郎  
二月二日セウテハライ向イ出テ六日取宅  
教員不雇ヘス 取宅セシ事  
海老名行三氏屬尼在任教員サ、フルデテ方面  
在任所へ約三週百位日子豫定ニテ昭下會  
シアル事  
月給五拾圓ナリ事  
授任サレ事トナレバ早崎茂吉所有地ニ七ニ号  
地五拾五畝余 植付カフ五九年生三千株アル事  
代價八五五五圓ノ月賦ニテ松込ニノ事、テ  
所有地讓渡ナス  
伯語校地内テ事  
邦語校ハハ約一キロメートル距離ナル事  
草葺小屋式ヲ手折行テ百畝 床板張リノ  
区内居住ヲ望ミタル事ヨリ交渉始メレテ  
報答セテ区々ノ承諾又得タリ  
二 昭和七年十二月十八日 区會開会トナリ  
ヨリ本区區會開会事

Bunkyo 0506 〔区會議事録〕

昭和七年十二月十八日  
第二十四区邦語教育ニ関スル協議事項  
一 田中政勝先生辭職サレタム 昭和八年度ハ如何ノ  
法方ニ依リ邦語教育ナスカ  
一 教育繼續スルニ費用ノ負担如何ニナスカ  
一 五十區邦語校創主ノ降格ナル事ナリシヤ  
右協議致度有己ノ總會ヲ十月十八日午後二時ヨリ  
講堂ニテ會開ス  
出席者九名ノ如シ十二名  
田中政勝 奥山幸三郎 小宮山亮一  
安井銀造 奥山榮治 松本三太郎  
松本覺治 橋本留治 吉川茂之助  
新橋弥作 宮下丑花代高市高市太郎  
二名 事故欠席者 菊地高廣 田代栄三  
決議ノ事項  
一 邦語教育繼續 方決定  
一 邦語教員雇聘ナスコトニ 決定  
一 邦語教員 邦語及伯語教員給料共月額百圓豫定  
邦語教員月給百五拾圓ヨリ百八拾圓以内ニ雇度シ  
伯語教員月給百拾圓 以内ニ雇度シ  
一 費用徴収就學児童一家一名月七圓 一家二名  
月十圓 一家三名十四圓 トテ校費不利徴収ス  
一 教員科ノ不足數ハ各予ニ等級附シ区内ノ員トス

Bunkyo 0508 第二十四区邦語教育ニ関スル協議事項

キロンボ混合學校建築會計報告	
收入之部	
一、日本政府より教育補助金	貳千二百六十九圓九角七分
二、當第拾陸區々々々々々々々々	四二二圓六角一分
三、當校附近外人寄附金	五百〇七圓九角七分
四、第拾陸區々々々々々々々々	七百四十五圓九角七分
五、第八區々々々々々々々々	四拾九圓九角七分
六、第拾陸區々々々々々々々々	四拾九圓九角七分
七、第拾陸區々々々々々々々々	六拾九圓九角七分
八、第九區々々々々々々々々	六拾九圓九角七分
九、第九區牧内忠君より寄附金	九圓九角七分
十、サト市一南人より寄附金	九圓九角七分

Bunkyo 0519 キロンボ混合學校建築會計報告 (一)

キロンボ混合學校建築會計報告	
支出之部	
一、學校建築使用人々々々々々々々々	貳千二百六十九圓九角七分
二、バタ、總校事務人々々々々々々	五百四十九圓九角七分
三、此處區集會所々々々々々々々々	六百九十九圓九角七分
四、總校敷地代々々々々々々々々	六百九十九圓九角七分
五、此處區集會所々々々々々々々々	六百九十九圓九角七分
六、建築用金具代	壹千二百六十九圓九角七分
七、估價便宜金、后代々々々々々々	壹千二百六十九圓九角七分
八、便所建築金、材料代	壹千二百六十九圓九角七分

Bunkyo 0521 キロンボ混合學校建築會計報告 (二)





Bunkyo 0526 學校登録届 (下書き)



### 3 キロンボ童夢倶楽部記録

ここに活字化して紹介する「キロンボ童夢倶楽部記帳」(Caderno B0001-0037)は、レジストロ植民地の第二四区でおこなわれていた移動音楽教室の活動記録である。

「童夢クラブ」は、1935年に結成された日系少年少女の合奏団として知られている。『ブラジル日本移民百年史』によると、同志社大学を中退し渡伯していた神学生・松村俊明が1932年にセッテ・バラスのキロンボ日語学校に教員として赴任<sup>(1)</sup>、同志社グリークラブ時代に嗜んだマンドリンを使って熱心に音楽教育をおこなった。合奏団が結成されると近隣のフェスタに出演し人気となり、海外興業サンパウロ支店長の宮腰千葉太の援助によりサンパウロ公演もおこなった。しかし、キロンボ地区は開発が予定通りに進まなかったため人口流出が激しく、住民数の減少により1941年にキロンボ日語学校は閉鎖されてしまった。松村はクラブ員7人と海外興業牧場跡に移り、そこに「養成塾」を設立、ここを拠点に近隣の日系青少年に日本語と音楽を教える活動を1957年まで続けたという(第4巻、トッパン・プレス、2013年、101~102頁)。

安中末次郎『イグアッペ植民地創立廿週年記念写真帖、1913~1933』には、キロンボに赴任直後の松村の姿が確認できる(図4)(安中末次郎、1934年)。キロンボ日語学校の元生徒にインタビューしたセルマ・オオムロは、松村が、日欧の既存の歌謡を教えるばかりでなく、当地の児童に郷土の歌を歌わせるためにリベイラ川を題材にした歌謡を創作することもあったことを聞いている。オオムロによれば、松村は、キロンボを去ったのちに一時的にボア・ビスタでも教鞭を執っていたという(Omuro, 'A escolarização da comunidade nipo-brasileira de Registro (1913-1963),' 2015, pp. 77-79, 212)。雑誌『曠野の星』のインタビュー記事によれば、ボア・ビスタの学校というのは、上記の『ブラジル日本移民百年史』で言及されている「養成塾」であり、敷地面積50アルケール、うち20アルケールが牧場で、塾内では牛40頭、馬5頭が飼育されていたという(第22号、1954年、20~22頁)。

松村俊明を顧問にして第二四区に童夢クラブが結成されたのは1944年の元旦であった。その規約によれば、キロンボ童夢クラブは、公立学校を卒業した日系子弟の補習教育を目的にしていた。具体的には、(1)必須の外国語つまり日本語の習得による智能増進と徳器成就、(2)音楽の修得による情操教育の完成、(3)遊戯親睦を通した会員相互の人格の向上であった(B0003)。市販の罫紙



図4 キロンボ日語学校の松村俊明  
(安中末次郎『イグアッペ植民地創立廿週年記念写真帖』より)

ノートに、クラブ結成から1948年元旦の互礼会までの会合が都度追記されている。簡潔な記録ではあるが、第二次世界大戦終結前後の日系植民地の生活に関する注目すべき情報を含んでいる。

第一に、キロンボ童夢クラブが結成されたのは、戦中であったことである。1942年1月、ブラジルが枢軸国と国交を断絶したさいにサンパウロ州保安局は枢軸国国籍の住民に対する取



締令を公布、言論や集会、移動、各国の言語や儀礼的慣習に制限を受けていたなかでの結成であった。

例会は最盛期には月2回、土曜日の午後8時（戦後は午後9時）に順番に会員宅を使っておこなわれた。15人程度の会員が集い松村俊明から午後11時（戦後は午前零時頃）まで音楽指導を受け、その後、夜食を取りながら彼の教養講釈を聞き、散会は深夜であった。戦中の彼の講釈の内容は、たとえば、中国との戦争で日本が有利に立ったのは、仮名文字のない中国では民衆に情報が行き届かなかったためであるとか、日本海海戦についてといったものであった（B0009）。保護者的立場で参加していた田中正勝も、たとえば、教育勅語について講釈をしていた（B0011）。

田中のような一世は、日系人に対するブラジル社会の変化を否定的に感じていたようである。第一章で触れたように、田中は少年として渡伯後に父を失い苦労の末に営農を拡大した地域の有力者であったが、彼は、戦争が終わり次第、アジア大陸に再移住先の視察に行くつもりでいたようである（B0010）。一方で、ブラジル国籍の二世たちには、みずからが敵性外国人であるという抑圧感は少なかったかも知れないが、ブラジル国籍者であるがゆえに、年長の童夢クラブ会員には召集されて兵役に赴く者もあった（B0010）。

いずれにせよ、日本ナショナリズムの涵養を含む日系子弟教育であれば、キロンボ童夢クラブの例会は取締対象となる可能性があり、実際に、結成から半年を経たころに指導者の松村が家宅捜査を受けたため、クラブは自主的に活動を停止している（B0014）。

第二に注目すべき点は、戦後も戦前のスタイルで元旦の遙拝式が継続されていたことである。例会活動を自粛していたレジストロ童夢倶楽部であったが、1945年の元旦には新年遙拝式をおこなったようである。式次には、君が代や新年の歌、愛国行進曲の斉唱、教育勅語の奉読、田中正勝の訓辞などが並ぶ（B0036）。終戦を挟んだ同年12月に定例会を再開（B0015）、翌月に予定した遙拝式は「都合上流れ」たが（B0025）、翌1947年元旦には会員宅で遙拝式をおこなっている（B0027）。1945年と1947年の式次第を見比べると、戦争が終わっても変化はなく、愛国行進曲が歌われ教育勅語が奉読されていたことがわかる。

第三に注目すべきは、公立学校との友好関係である。1947年6月28日、聖ペドロの日を祝う六月祭（*festa junina*）の夕べに、レジストロおよびジュキア方面の童夢クラブ会員は海外興業の倉庫に集まり、レジストロ市街地のグルッポ校（*Grupo Escolar Francisco Manuel*）の生徒と合唱会を開催している（B0012）。演目には「荒城の月」や「美しき自然」といった日本の唱歌が含まれていたようであり、欧米の唱歌も日本語歌詞で歌われたと推察される。5月に松村が「外人」との親睦企画として発案したときには「愛国行進曲」も含まれていた（B0031）。6月初旬にグルッポ校の校長から積極的な申し出があり、六月祭のイベントへと企画が拡大された（B0013, B0033）。「数百名」の見物人から入場料を集めたのは、「カイシャ・エスコラル」すなわち学校のための資金造成であったようである（*caixa*は「金庫」の意）（B0013）。

## 注

- (1) 紛らわしいが、第一章で言及したキロンボ混合学校のキロンボは第二四区周辺の地名であり、ここでのいうキロンボは、レジストロと並ぶ海外興業の日系植民地セッテ・パラス内の一地区の地名であって両者はまったく無関係な別の土地である。キロンボ（*Quilombo*）とは逃亡奴隷の集落を指す語であるため、ブラジル国内に無数に存在する地名である。



## キロンボ童夢俱樂部記帳

### Caderno B0001

キロンボ童夢俱樂部記帳

### Caderno B0002

キロンボ童夢俱樂部規約

第壹條 名称

第壹項

本會はキロンボ童夢俱樂部と称ス

第貳條 組織

第壹項

本會はレジストロ植民地キロンボ近郊に在住する邦人子弟を以って組織す

第貳項

本會は本會の目的に賛成し之に達成に協力する所の男子及び女子を以って組織し年齢に規定なし

第参項

本會の役員は名誉職とし左の役員を置く

部長一名副部長一名顧問一名賛助員若干名

第四項

本會の役員の職責は部長は本会を代表し會務の運行を計り庶務會計を執る副部長は部長を補佐し部長事故ある時は之に代る顧問は本會之設立及び維持に協力され指導さる、方を本會の總會の

### Caderno B0003

協賛を得て委嘱す賛助員は本會の趣旨及實行方法に賛成し之れが達成に協力指導さる、方を委嘱す

第五項

本會は部長の元に記帳を置き會計日記を記載す

第参條 目的

第壹項

本會は邦人子弟人子女弟妹の伯語小學校卒業後の補習教育を以って必要なる外国語を習徳し智能の増進と徳器成就を圖り音樂を習得して正しき情操教育の完成を期し本會々員の友誼親睦を結び相互の人格之向上を計り立派なる市民たる事を以って目的とす

第四條 實行方法

第一項

本會は毎月一回又は二回土曜日の晩集合して音樂の習得と精神

### Caderno B0004

教育の指導誘發と會員相互の親睦を計る之れを常會と称す

第二項

本會の目的達成の為に集會する場所は會員の各家庭を順繰りに使用す然し都合上之れが前後する



も差支なし

#### 第参項

本會は定期總會を毎年一月一日に開催し會務並に會計の報告と次年度の役員の改選を行ふ但し役員亦の再選留任は差支なし

第四項 本會の定期總會は新年遙拜式と互禮會とを兼て行ふものとする

#### 第五條 維持方法

##### 第一項

本會經營上の維持方法は會費及び特志家の寄附金を以て之に当てる

##### 第二項

本會の規約の改変又は削除は常會及び定期總會の場合會員の協賛を得て之を定むものとする

### Caderno B0005

昭和拾九年正月元旦

本日夕刻田中政勝氏宅に於て当キロンボ童夢俱樂部の謹いで發會式を行ひ遙拜式を終えて色々田中御馳走になりつゝ田中様役員の選舉すにうつる当選の決果次の役員に決定す

部長 臼杵義正

副部長 早崎茂正君

顧問 松村先生

賛助員 田中政勝様

高市太郎様

吉川徳雄様

早崎茂吉様

臼杵佐平

後種々と御馳走になりつゝ田中様の有益なる御話しを承はり后後11時頃本日より日記をして無い御方はかならず日記をつける様ちかつて后後11時頃皆勇んで會散す

### Caderno B0006

土曜日 三月十一日 天気

今月の第一土曜日は松村先生宅の御近所の大沼様ので御不幸がありし為本日の第二土曜に延期す本日后八時半全會員集合し吉川伯之氏宅に於いて集合し松村先生と助手の御支道指導の元に音楽の習得をし十一時に止めて御茶を御馳走になりつゝ先生の有益なる御話しを聞き十二時會散す

### Caderno B0007

土曜日 四月一日 天気 后後曇り

第四回キロンボ童夢會を會員田中真人氏宅に於いて實行す

后後八時半全會員集合し松村先生の御指導のもとに音楽を習ひ十一時より御茶菓子を御馳走になりつゝ松村先生と田中政勝様より有益なる御話しを聞きれい時三十分開散す

本日田中雅人様入會す

### Caderno B0008

土曜日 五月十三日 曇り



今月の第一日曜日は松村先生ジユキヤ方面へ旅行中の為本日に延期す

本日會員臼杵義正氏宅に於いて童夢會開催す八時半より先生の御指導のもとに音音樂の稽古をす田中政勝氏もお目見光来になつて一緒に歌つて十一時閉會し御茶を飲みつゝ先生のお話を聞き一時閉會す本日より先生に御願ひして月二回童夢會実行して頂く様にす差支の無い以上毎月第一土曜と第三土曜に決定す

本日の出席者十四名 欠席者一名

欠席者早崎榮正君指怪我致せし為

本日早崎<sup>ママ</sup>チエ様<sup>ママ</sup>兒夢會に入會す

### Caderno B0009

土曜日 五月二十七日 后前小雨後曇り

后後八時全會員集合しれいの通り十一時まで松村先生を始め石井修様と角田勇君の御指導のもとに會員早崎茂正氏宅に於いて音樂の稽古をし後御茶を御馳走になりつゝ先生より日本海海戦の話し及び字と言ふ事について何如に有難いかと言ふ事を承はり又カナのどれだけ便利利であるか支那が戦に敗けたのも当国にはカナがない故人民一般に色々な事情を通知する事の出来なかつた為等其の他色々となになる御話を承はり一時過ぎ會散す

本日全會員出席す十五名

### Caderno B0010

昭和拾九年

土曜日 六月十日 天気

本日全會員八時半に會員吉川伯幸氏宅に集合し松村先生の御指導のもとにれいの通り十一時まで音樂の稽古をし後御茶菓子<sup>シサツ</sup>を御馳走になりつゝ先生より有益な御話を承はり又田中政勝氏からも帰国論に就いて御話しがあり戦がすみ仕第亜細亞大陸へ<sup>シサツ</sup> 察<sup>カクゴ</sup>に行く<sup>しょうしゆう</sup>で居る事など承はり一時頃會散す本日全會員出席す早崎榮正様は本月十七日に兵隊に招集されて行く為本日かぎり一時皆と御別れをす

### Caderno B0011

昭和拾九年七月九日 土曜日 曇り

會員臼杵義正氏宅に於いて后後八時より童夢會開催し全會員集合して松村先生と助手中田武男君と中田博君の元に音樂の習得して後臼杵義正教育勅語を讀して田中政勝様より

『朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ』と言ふ意味に就いて御話しがあり十二時半頃閉會す

### Caderno B0012 (差し込み)

六月廿二日 日曜 雨天

本日は二部山崎氏宅に於いてレジストロ童夢俱樂部員集り来る廿九日の演奏會の練習を皆揃つてプログラムだうり行実行す皆お茶を頂き御馳走になり會散す

六月廿九日 日 天気

本日は午後一時よりレジストロ・ジユキアー童夢俱樂部が集り午後七時よりの演奏會の練習をし六



時夕食を済し七時半より演奏會が催され十二時終  
見物人の数は數百名有り場所は會場所は海興三番倉庫

本日は六月廿九日と云って丁度サンペードロで有り有名なヂアサントの上樂しい演奏が催されレジストロ・ジュキアーの童夢俱樂部が寄集り「グルツポサンフランシスコ+フランシスコマノエル」の生徒達と友に共に楽しく今日の日を過ごし實にさうくはいであつた  
午後七時より始まり主催レジストロ青年會<sup>ママ</sup>大一部青年會・グルツポフランシスコマノエル・レジストロ・ジュキア童夢俱樂部 一、グルツポ校長開會の辞よりブラジル國歌合唱プログラムだうり飛入も二三あつてにぎあいを一さう突<sup>ママ</sup>くふかくした  
最後に「恋は窓の下で」一部山崎氏はチャプリンのまねをしてくわんしゆを<sup>ママ</sup>言はせて閉會とす  
皆勇んで歸についた丁度れ一時になつてゐた

### Caderno B0013 (差し込み)

五月十八日 日曜 雨 五月十八日

本日は田中真人氏宅に於いて童夢會を開催し松村先生の御指導の元に音樂を習十一時半中止すお茶を御馳走になりつゝ先生のお話を聞かれ一時半會散す

六月八日 日曜日 曇雨

本日は臼杵義正氏宅に於いて童夢會を催し會員九時集合して松村先生の御指導の元に音樂を習い先生の又先生よりお話が有り「レジストログルツポ校長フロラスーは先生に音樂を<sup>ママ</sup>ゼ悲やつて頂きたいとの事其の音樂はカイシヤエスコラルの為にグルツポの生生徒と童夢俱樂部員が集<sup>ママ</sup>つて入りやう<sup>ママ</sup>領を取つて<sup>ママ</sup>カイシヤへおさめる演奏会の日は月末になる場所もきまつてゐない  
プログラムもまだ作つてゐないがスワニー河・美しき天然・光場荒城の月・春が来た・お手々つないで・影をしたいて・清春<sup>ママ</sup>ヨ旅情」後お茶を頂き~~十三時~~會散す次は来る廿二日二部山崎氏宅へ集り演奏會の練習をする事となりプログラムも其の日迄にはお作になると云われ我々一同お茶を頂き十二時會散す

### Caderno B0014

昭和拾九年七月二十九日 土曜日 天気

本日の童夢俱樂部會には先生宅の小さい子供様ゴ病氣ノ為先生お見えにならずして青年のお方中田武男様石井修様角田武男様の三人が御出になり私等會員音樂ノ御<sup>ママ</sup>支導を受く  
八月三日の晩コシヤクにもけいじが松村先生宅へ取りしらべに行き種々<sup>ママ</sup>と文題になつた為一時おさまるまで童夢會は中止す

### Caderno B0015

昭和二十年十二月十六日

久しぶりにて會員臼杵義正宅に於て童夢俱樂部開會す  
會員

### Caderno B0016

昭和二十一年一月十九日 土 雨



本日は月の第三土曜で童夢俱樂部會を會員早崎茂雅宅に於いて開催す

后後九時會員集合し第三回役員選舉にうつり当選の決果部長早崎茂雅副部長吉川伯幸君に決定す

十時より松村先生秋久保先生中田武男様の御指導の元に音樂を習得して十二時中止す

茶を吹<sup>マツ</sup>つ、先生方の有益なるお話を聞き午前一時會散す

本日の會員の出席者

早崎茂雅 早崎榮雅 早崎貞枝 早崎玉枝 早崎千恵 吉川伯幸君 田中義人君 臼杵義正君 臼杵二三子様 大西つる子様 石川正廣君

前年度 部長 臼杵義正君より童夢會への松村先生よりの氣風<sup>マツ</sup>金二百三十針預る並<sup>マツ</sup>日にキロンボ童夢俱樂部記帳をも預る

### Caderno B0017

昭和二十一年二月十六日 土 雨

本日は吉川伯幸氏宅に於いて童夢會會開のじゆんに当つてゐたが不在の爲早崎茂雅宅に於いて會開す

今夜は雨の爲會員九時に集合し九時半より松村先生の御指導の元に音樂を習得して一時三十分に

中止す茶を飲<sup>マツ</sup>つ、有益なるお話を聞き大降の爲二時會散す

今夜は田代榮三郎君が初めて遊びに来られた

雨のために今夜の樂機<sup>マツ</sup>を皆預けて今夜の樂もしい會も雨と友にお別れ致しました

本日の出席者は臼杵義正君 臼杵二三子様 大西つる子様 石川正廣君 田中誠人君 田中兼人君 田中雅人君 早崎茂雅 早崎榮雅 早崎貞枝 早崎玉枝 早崎富枝 早崎千恵

### Caderno B0018

三月十六日 第三土 雨

本日は會員田中眞人氏宅に於いて后後九時より童夢會を開催し會員集合して松村先生の御指導の元に音樂を習得して十二時中止す

御茶を御馳走になりつ、先生の有益なる御話を聞午前二時會員一同勇んで會散す

本日の出席者

臼杵義正君 臼杵艶野様 臼杵二三子 大西つる子様 石川正廣君 吉川伯幸君 田代榮三郎君 早崎茂雅 早崎貞枝 早崎玉枝 早崎富枝 早崎千恵

### Caderno B0019

四月十四三日 土 晴

今夜ノ童夢會ハ今年ニナツテ初メテノ天氣デアリ會員吉川伯幸氏宅ニ於イテ開催シ會員集合シテ后

後九時ヨリ松村先生及中田武男様ノ御指導ノ元ニ音樂ヲ習得シテ十二時中止ス

後御茶ヲ御馳走ニナリツ、先生ノ有益ナル御話ヲ承リ午前一時半皆勇ンデ會散ス

本日ノ出席者

田中眞人君 田中義人君 田中雅人君 吉川伯幸君 臼杵義正君艶野様 臼杵富貴雄君 臼杵二三子様 大西つる子様 石川正廣君 早崎茂雅 早崎榮雅 早崎貞枝 早崎玉枝 早崎富枝 早崎千恵

### Caderno B0020

八月廿四日 第四土 雲



本日は久しぶりで會員臼杵義正氏宅に於いて童夢俱樂部會が開かれ會員一同は喜んで出席す  
先生は奥様に先だたれ御氣の毒な次第で御座居ます不幸をも氣になさらず續いて私達を指導下さる  
のは此の上も無い事と感謝致します會員九時集合し松村先生の御指導の元に音楽を習得して十二時  
中止す

御茶を御馳走になりつゝ先生の有益なる御話を聞き午前一時會散す

#### Caderno B0021

九月十四日 第二土 雨

本日は會員早崎茂雅宅に於いて會催し會員九時集合し松村先生の御指導の元に音楽を習得して十二  
時中止す

茶を飲みつゝ先生の有益なる御話を聞き雨の爲午前一時三十分會散す

#### Caderno B0022

九月廿八日 第四土 曇夜雨

本日は會員田中眞人君宅に於いて童夢會を會散催し會員九時集合し音楽及びトラドソンの習得を松  
村先生より受け午前一時中止す

御茶を御馳走になりつゝ先生の有益なる御話を聞き午前二時會散す

出席者

田中眞人君 義人君 雅人君 臼杵義正君 政枝様 艶野様 二三子様 早崎茂雅 早崎榮雅 貞  
枝 玉枝 富枝

#### Caderno B0023

十月十二日 第二土 晴

本日は會員臼杵義正氏宅に於いて童夢會を會催し會員九時集合し松村先生の御指導の元に音楽及び  
トラドソンの習得を得れ一時三十分中止す

御茶を御馳走になりつゝ先生の有益な御話を聞き午前一時半會散す

出席者

臼杵義正君 臼杵政枝様 臼杵艶野様 臼杵二三子様 石川正廣君 田中眞人君 田中雅人君 早  
崎茂雄 早崎貞枝 早崎玉枝 早崎富枝

#### Caderno B0024

十一月九日 第二土 曇

本日の童夢會は去る二日に定められてゐたが丁度其の日松村先生は御家一同をつれカナネーア海迄  
遊に行かれたので九日に延期す

會員九時半集合して早崎茂雅宅に於いて童夢會が開催す

松村先生の御指導の元に音楽を習得して一時半中止す

茶を飲みつゝ先生の有益なお話を聞き午前一時半會散す

#### Caderno B0025

十二月九七日 第一土 曇

本日は本年度最後の童夢會で田中眞人君宅に於いて會員九時集合し松村先生の御指導の元に音楽を



習得して十二時中止す

御茶を御馳走になりつゝ、明年の遙拜式は行なふか行はないかと田中先生よりの□有り本年の遙拜式は茂雅宅で行ふ□で有ったが都合上ながれ明年は早崎宅で遙拜式と互禮會<sup>あ</sup>を行ふ事になつた昭和貳拾貳年一月一日午後一時より開催と定期す

會員達一同は本年度最後之童夢會と共に午前二時會散す

### Caderno B0026

昭和貳拾壹年

四月三十日

吉川伯幸君よりキロンボ童夢俱樂部へ寄附として金貳拾鈎預る

同日

吉川伯幸君聖サンベルナード移轉の爲めキロンボ童夢俱樂部退會届有り

五月五日

吉川伯幸君聖サンベルナードへ向□正午出發

キロンボ童夢俱樂部員一同送別品としてバンデジヤ<sup>ケ</sup>贈呈す

バンデジヤ代四十鈎他

七月一日

松村先生奥様御見舞として童夢俱樂部の金の有合□貳百拾鈎別封包にして富貴雄君に頼

### Caderno B0027

昭和貳拾貳年正月元旦

新年遙拜式々次

- 一、開會之辭（午後三時）司会者 田中賛助員
- 二、國歌（君が代）合唱
- 三、教育勅語 奉讀 部長
- 四、訓辭 高賛助員
- 五、新年の歌 合唱
- 六、祝辭 有志
- 七、愛國行進曲 合唱
- 八、感話（人生の目的）田中賛助員
- 九、閉會之辭 會員 臼杵義正君（善良なる子孫を育つこと）
- 十、祝賀宴
- 十一、餘興
- 十二、役員選舉

本日は會員早崎茂雄宅に於いて第三回童夢俱樂部遙拜式を開催し會員一同並びに父兄達集合し午後三時開會之辭より左<sup>ママ</sup>の通り

夕立の爲餘興役員選舉をのぞいて午後五時會散す

**Caderno B0028**

一月二五日 土 天気

本日は臼杵義正氏宅に於いて童夢會を開催し會員九時集合して松村先生の御指導の元に音楽を習得して十二時中止す

お茶を御馳走になりつゝ先生の有益なる御話を聞き午前一時會散す

**Caderno B0029**

二月二六日

本日は松村先生が各會員宅へ御巡廻なされて我等會員に音楽を指導して下されし事は此の上もなく感謝してやまない次第で有ります

**Caderno B0030**

四月十三日 土 曇 (日付追記)

三月は生先生が御病氣の爲童夢會は休む

本日は早崎茂雅宅に於いて童夢會を開催し會員九時集合して先生の御指導の元に音楽の習得をしてれ一時半中止す

お茶を飲みつゝ先生の爲になる御話を聞き一時半會散す

**Caderno B0031**

五月四日 土 雨 (日付追記)

本日は松村先生が御巡廻なされる日であつたがかぜをひかれた爲に我々を會員臼杵義正氏宅に集めて九時より音楽を指導して下され青春リヨジョウの歌を教そわり合唱して十二時中止す

お茶を御馳走になりつゝ先生は童夢俱樂部と外人が集り一日レジストロ<sup>ママ</sup>シネマ<sup>ママ</sup>館を借りて共に遊ぼうではないかと云われ俱樂部員は愛國行進曲・スハニー川・風の歌・美しき天然・荒城の月・赤イ靴の曲をひいてたのしむこと午前一時開散す

**Caderno B0032**

五月十八日 日曜 雨

本日は田中真人氏宅に於いて童夢會を開催し松村先生の御指導の元に音楽を習十一時半中止すお茶を御馳走になりつゝ先生のお話を聞かれ一時半會散す

**Caderno B0033**

六月八日 日曜 雨

會員臼杵義正氏宅に於いて童夢會を開催し松村先生の御指導の元に音楽を習い、又先生よりお話が有りレジストログループ校長フロラスーは先生にぜひ音楽をやつて頂きたいとの事カイシヤエスコラルの爲にグルツポの生徒と童夢俱樂部員が集り入<sup>ママ</sup>ジヨ<sup>ママ</sup>領を取りカイシヤへおさめる

場所も回もまだきまつてゐないが二十九日か三十日になるだらう「やすい」曲ばかり皆で合奏しやうと云はれお茶を御馳走になり十二時開散す

**Caderno B0034**

六月二十二日 日曜 雨天



本日は第二部山崎氏宅に於いてレヂストロ童夢俱樂部員集り来る二九日の演奏會の練習を皆揃つて  
プログラムだうり實行す  
お茶を御馳走になり開散す

### Caderno B0035

六月二十九日 日曜日 天氣

### Caderno B0036 (貼り付け)

新年遙拜式々次 昭和貳拾年一月一日

- 一、開會之辭 臼杵義正
- 二、君が代
- 三、教育勅語朗讀 早崎茂雅
- 四、訓辭 田中政勝
- 五、新年之歌
- 六、祝辭 吉川伯幸
- 七、愛國行進曲
- 八、感話 臼杵政枝
- 九、閉會之辭 早崎貞枝 (宮腰養正塾々生有志)

### Caderno B0037

松村先生より寄附として一金二百三十錢預る

1946		寄付金	
4月30日		吉川伯幸君	
〃上			20,00
1月19日		先生	230,00
5月5日	吉川君への送別品バシデジヤ代	40,00	
7月1日	松村先生奥様御見舞金	210,00	
計		250,00	250,00
1946	1月、12月 會費	合計	86,00